



自動車関連産業の脱炭素化・電動化に関する協議体の運営等業務  
報告書（令和五年度）

2024年2月28日

# 本年度（令和5年度）の活動結果

# 本年度は、サプライヤの現状と課題整理としてアンケート調査分析と共通課題討議、次年度実証事業化に向けた初期検討として共同スキーム研究会、コア技術・強み整理を実施

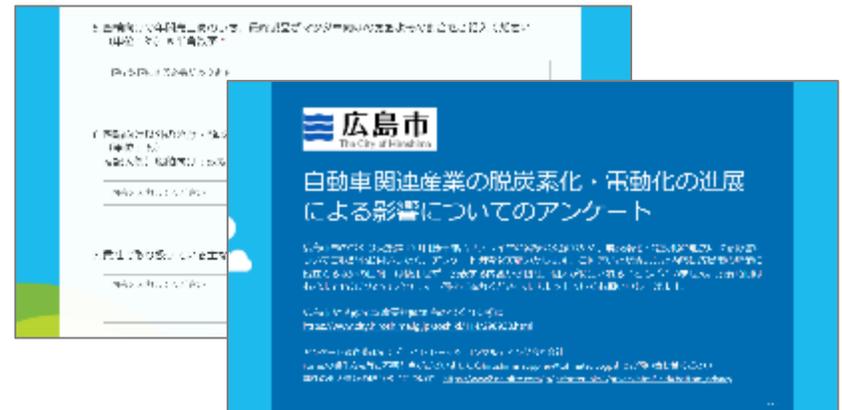
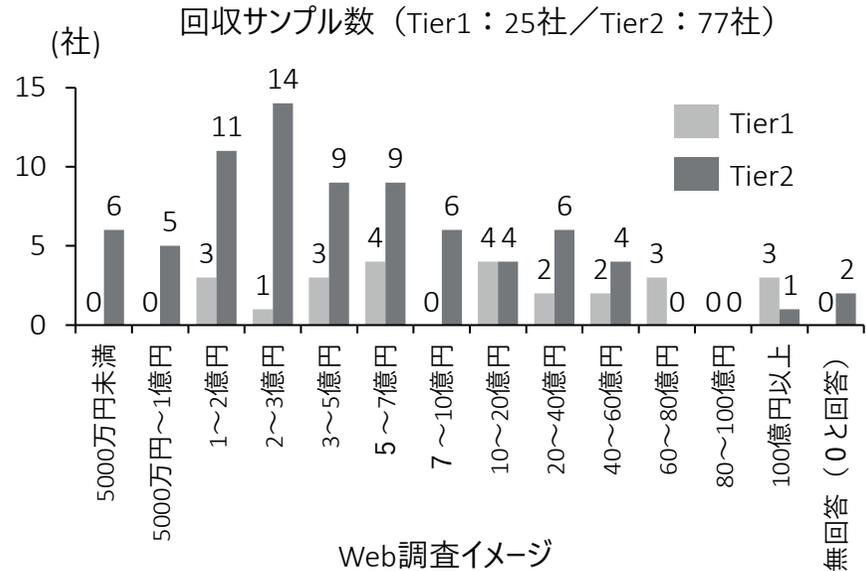
## 令和五年度の活動概要

		サプライヤの現状と課題整理		次年度実証事業化に向けた初期検討	
		サプライヤ向けアンケート	共通課題討議	共同スキーム研究会	コア技術・強み整理
6月 中旬		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アンケート発送 (6/16)</li> <li>調査内容(N=437)</li> <li>① 脱炭素化への対応</li> <li>② 業務効率化のポテンシャル</li> <li>③ 事業拡大の可能性</li> <li>④ 人材育成等に対するニーズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 発足会議 (7/3 全体開催)</li> <li>① マツダ(株)からのメッセージ講演</li> <li>② 電動化対応や企業の強靱化等サプライヤが対応すべき取組に関する講演</li> <li>③ 共通課題討議</li> <li>④ 研究会趣旨説明・事業紹介</li> </ul>		
	7月 月上旬				
7月 月中旬				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回(7/10～28) オンライン</li> <li>① 説明及び事例紹介</li> <li>② グループワーク (状況把握)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回(7/10～28) オンライン</li> <li>① 説明及び事例紹介</li> <li>② グループワーク (状況把握)</li> </ul>
8月 月上旬			<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2回(7/31～8/11) 対面開催</li> <li>① グループワーク (対象選定～課題抽出)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2回(7/31～8/11) 対面開催</li> <li>① グループワーク (対象選定～課題抽出)</li> </ul>	
9月 月上旬			<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第3回(8/28～9/8) オンライン</li> <li>① グループワーク (施策立案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第3回(8/28～9/8) オンライン</li> <li>① グループワーク (施策立案)</li> </ul>	
12月		協議体での意見やアンケートの結果を踏まえた事業化検討			
2月 中旬		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業報告会</li> <li>① 協議体での検討結果、成果の報告</li> <li>② 広島市令和6年度サプライヤ向け支援事業(案)の紹介</li> </ul>			

# 広島市を含む広島広域都市圏における、自動車産業関連サプライヤ437社を対象にオンラインでのアンケート調査を実施し、サプライヤの課題やニーズの全体傾向を調査分析した

## アンケート調査の概要

項目	内容
調査目的	脱炭素化や電動化、デジタル化に対する地域サプライヤの現状と課題・ニーズの全体傾向を分析
調査時期	2023年6月16日～8月25日
調査方式	Webによるアンケート調査
調査対象	広島市を含む広島広域都市圏における、自動車産業関連サプライヤ437社（Tier1除く）
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 回答企業様の一般情報</li> <li>② 「脱炭素化」、「業務効率・デジタル化」、「事業拡大」、「人材育成」に関する課題と着手状況と取組詳細</li> <li>③ 行政に期待する支援策</li> </ul>
分析手法	回答事業者の基礎情報を踏まえない全体傾向分析に加えて、四輪事業割合の回答、各影響有無の回答に応じた傾向を分析



# 地域サプライヤの参加する協議体を発足し、4グループに分かれテーマ毎の課題洗い出しや取組み案アイデア出し・討議を実施

## 共通課題討議の概要

### グループワーク の目的

- 自動車業界トレンドと自社の現状、強み・資産等から、テーマに沿って課題および取組案を検討する
  - 「業務効率化・デジタル化」や「新地域・新製品・新事業」実現に向けた“人材”に関する課題と取組策

### ディスカッション ～発表の流れ

- 所属混合で4グループに分かれて討議を実施
  - 事前送付済み資料、テーマ概要を踏まえ、自社現状、保有技術・知見・過去検討内容等をインプットに課題・取組策を簡易的に整理する
- 討議後、各グループ代表者から発表（報告、質疑応答）
  - 発表形式は自由とし、ホワイトボードを用いる
  - 討議終了時間までに発表用資料を作成する

# 共同スキーム研究会では、共同スキームの先行事例、整理・類型化の方針、全体像についてご理解いただいた上で、解決し得る課題、資産・資源について討議いただいた

## 共同スキーム研究会の概要

### 共同スキーム研究会

- 企業において、どのような業務にコストや業務負荷がかかっており、どのような業務に企業間連携等による生産性向上・コスト削減等の改善の余地があるのかを把握し、共同スキームを生かした取組施策を検討する

		役割		
開催回	論点	参加企業様	広島市	DTC・専門家
共同スキーム研究会のアプローチ	第1回 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共同スキームの先行事例の理解</li> <li>■ 共同スキームの整理・類型化（お願い事項）</li> <li>■ 共同スキームの全体像の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共同スキーム研究会の開催・運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共同スキームの先行事例の共有</li> <li>■ 共同スキームの整理・類型化の形式の共有・整理のための助言</li> </ul>
	第2回 (現地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個社での解決が難しい課題、共同化できる可能性のある資産・資源の全体像の把握</li> <li>■ 共同スキームで解決すべき課題、活用すべき資産・資源の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共同スキーム研究会の開催・運営</li> <li>■ 広島市として共同スキームで解決すべき課題、共同スキームで活用すべき資産・資源の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個社での解決が難しい課題、共同化できる可能性のある資産・資源の整理に係る助言</li> </ul>
	第3回 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 実現に向けて何を行うべきか？               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 実現に向けた課題、行動案とは？</li> <li>➢ 広島市の担う役割は？</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 広島市として共同スキームで解決すべき課題、共同スキームで活用すべき資産・資源の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共同スキームの評価・優先順位付け</li> <li>■ 残課題、ネクストアクション、役割分担の検討</li> <li>■ 広島市としての支援施策の検討・実行</li> </ul>

# コア技術・強み整理では、事例や整理・類型化方法、全体像についてご理解いただいた上で、専門家講演・ディスカッションを通じてコア技術・強みの把握、取組検討を行った

## コア技術・強み整理の概要

### コア技術・強みの整理

- 各企業が自社のコア技術・強みを理解し、それらの活用方法および事業再構築に向けた取組施策を検討する

		役割			
開催回	論点	参加企業様	広島市	DTC・専門家	
コア技術・強み整理のアプローチ	第1回 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コア技術・強みを活かした先行事例の理解</li> <li>■ コア技術・強みの整理・類型化（お願い事項）</li> <li>■ コア技術・強みの全体像の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コア技術・強み整理の開催・運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コア技術・強みの先行事例共有</li> <li>■ コア技術・強みの全体像の共有および整理のための助言</li> </ul>	
	第2回 (現地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ どのようなコア技術・強みがあるか？</li> <li>■ どのような価値を創出すべきか？               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 広島市にどのようなコア技術・強みがあるか？</li> <li>➢ コア技術・強みを活かした価値創出の方向性は？</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個社および広島市におけるコア技術・強みの把握</li> <li>■ コア技術・強みの活用方法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コア技術・強み整理の開催・運営</li> <li>■ 広島市としてコア技術・強みを活かして解決すべき課題・領域の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コア技術・強みの整理・類型化のための助言</li> <li>■ コア技術・強みの活用方法の検討に係る助言</li> </ul>
	第3回 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 実現に向けて何を行うべきか？               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 実現に向けた課題、行動案とは？</li> <li>➢ 広島市の担う役割は？</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コア技術・強みを活用し手解決すべき課題、来年度以降の広島市における施策案の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コア技術・強み整理の開催・運営</li> <li>■ 残課題、役割分担の検討・共有</li> <li>■ 広島市としてのコア技術・強みを活用した支援施策の検討・共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 広島市内のコア技術・強みを活かした事業再構築モデル案、広島市として必要な支援施策の検討に係る助言</li> </ul>

# 地域サプライヤの現状と課題整理

# 脱炭素化は「意識醸成と見える化」、業務効率化・デジタル化は「人材育成と人材派遣」、事業拡大は「営業力強化のブランディングとマーケティング」がキーとなると想定

## 地域サプライヤの現状と課題整理（まとめ）

	脱炭素化	業務効率化・デジタル化	事業拡大
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業の4割は取組がなく、<b>効果や取組み方が分からない</b>との認識が強い</li> <li>■ 一方で、具体的な目標と合わせて<b>GHG排出量の数値化や工程毎の“見える化”</b>等を行っている企業は少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ デジタルデータの利活用としては、一部のデータのエクセル収集までの企業が多く、<b>具体的にデータを利活用、また業務効率化の推進企業は少ない</b></li> <li>■ エクセルデータの収集分析ができる人材は一定数いるも、<b>ツールの選定やカスタマイズができる人材は少数</b>であり、デジタル人材が不足している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>自社の強みが分からない、取組をするノウハウがない</b>企業も昨年度に続いて多い</li> <li>■ 危機意識は高いことが伺えるも、実際に<b>新分野展開や事業転換、業種転換等の取組みを実施している企業は少ない</b></li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設備投資が先行している影響もあり、<b>課題感としては予算がないが6割強と最も多く、費用対効果を得づらい状況での継続投資に懸念</b>があると想定</li> <li>■ 上記課題と連動して、<b>各省エネ設備投資の補助が最も多い</b>も、GHG排出量の見える化Toolの導入費用補助や自社にあった手法を検討する<b>専門家の派遣やセミナー講習</b>等の要望高</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 求める人材として、集めたデータを活用して<b>ツールの選定やベンダーコントロール、カスタイズができる人材</b>の声が大きく、現状とのギャップが大きな課題</li> <li>■ 上記に連動して、予算に関する要望は高いものの<b>人材育成に関わる部分での課題感・ニーズも同様に高い</b></li> <li>■ 一方で社員のリスクリングは、<b>社員の自主性が伴わないと効果がないことや人材の定着・確保への懸念</b>も大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人材不足の中でも、特に<b>営業として回るうえでの人材不足</b>が顕著であり、コネクションが乏しく地道な活動に対して得られる成果が少ない中で、なかなか投資としても伸びていない</li> <li>■ 一方それらを担う人材は、デジタル化と同様<b>人材の自主性や定着・確保への懸念</b>も大きい</li> <li>■ コア技術・強みがわからない企業も一定おり、<b>各社の強みを見定めたうえでの具体的な営業支援のニーズ</b>あり</li> </ul>

# 地域サプライヤの現状と課題整理

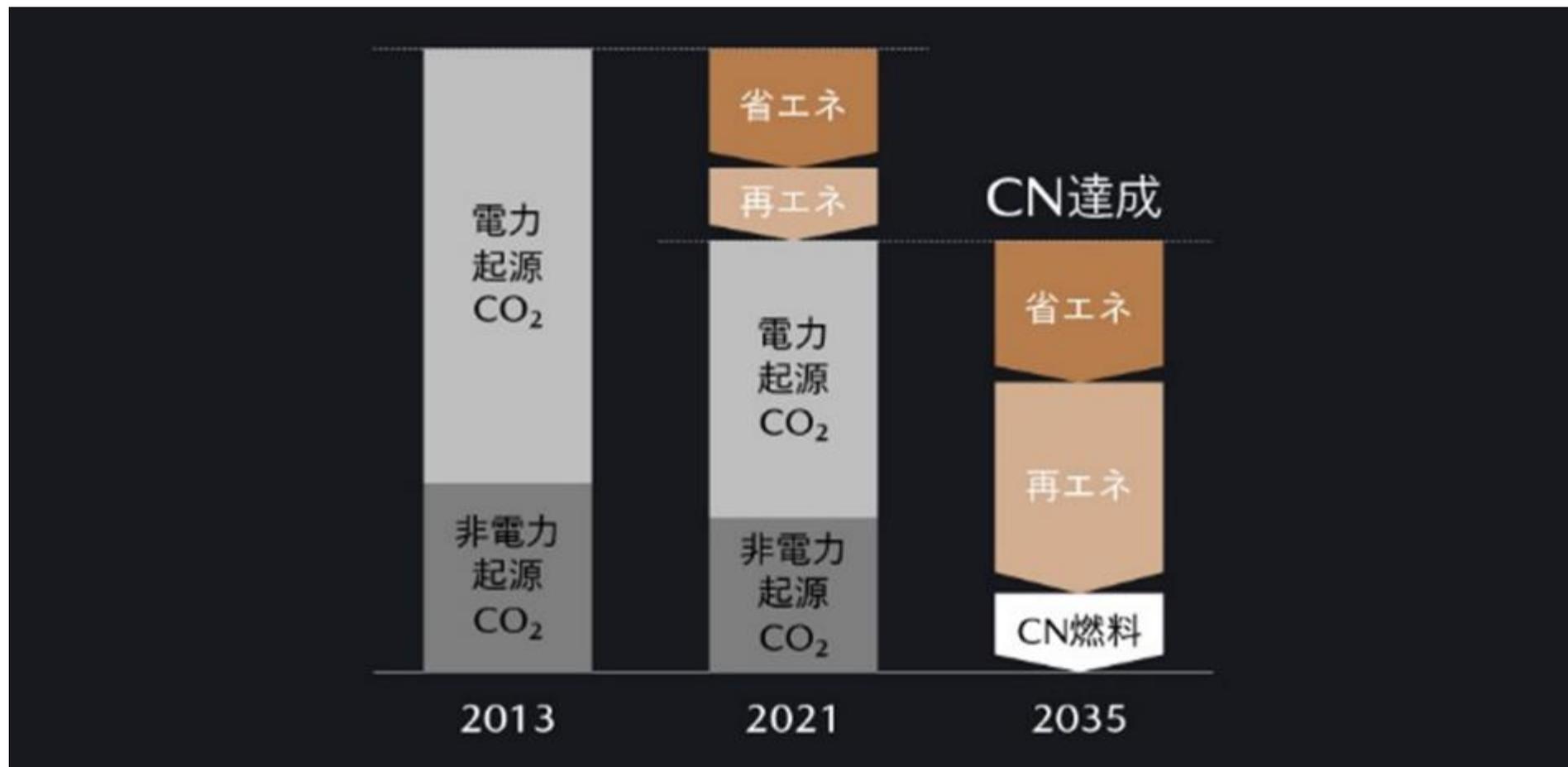
## －脱炭素化

- － 業務効率・デジタル化
- － 事業拡大
- － 人材育成（リスキリング）

# マツダ(株)では、2035年グローバル自社工場でのカーボンニュートラル実現、2050年サプライチェーン全体でのカーボンニュートラル実現を目指している

投影のみ

## マツダ(株)のカーボンニュートラル化に向けた取組み

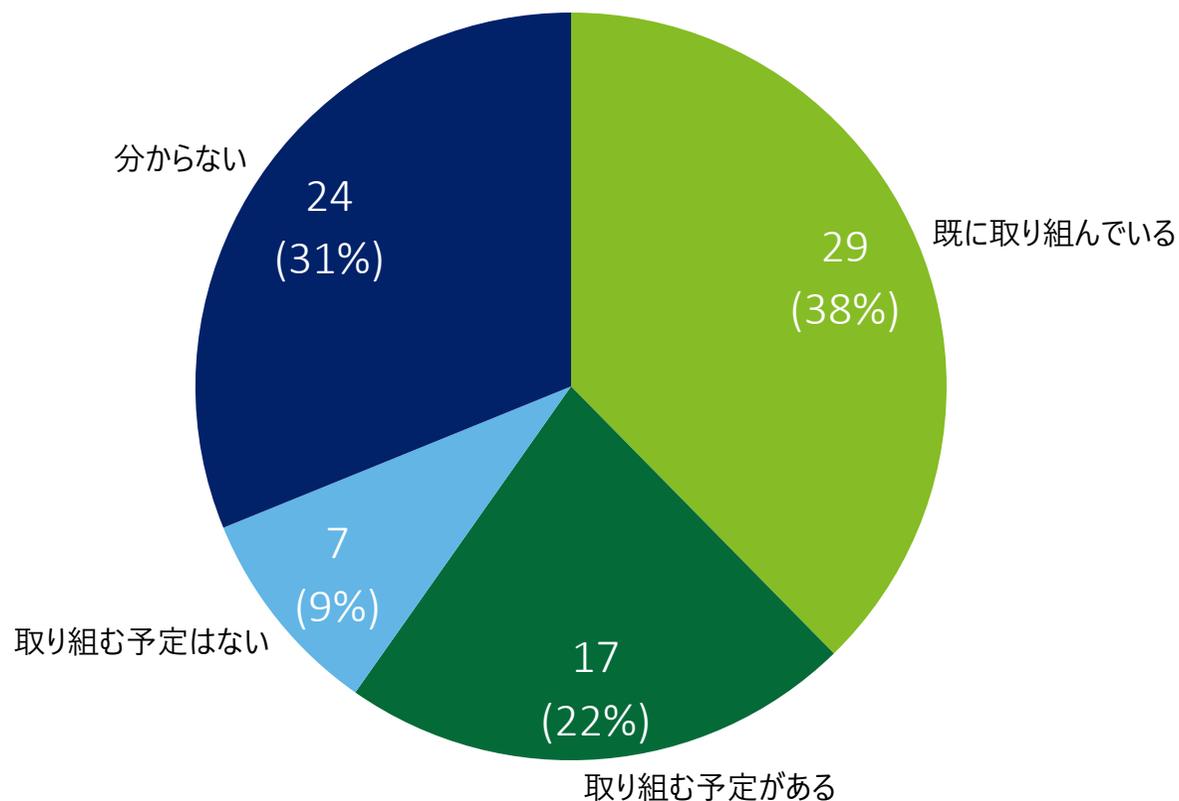


出所：「中期経営計画のアップデートおよび2030経営方針」（マツダ(株)、2022年11月22日）

# 脱炭素化に向け、60%の企業が取り組んでいる/取り組む予定があると回答している一方、40%の企業は取組がない状況と想定

## 脱炭素化に対する取組み状況\*

【N=77】

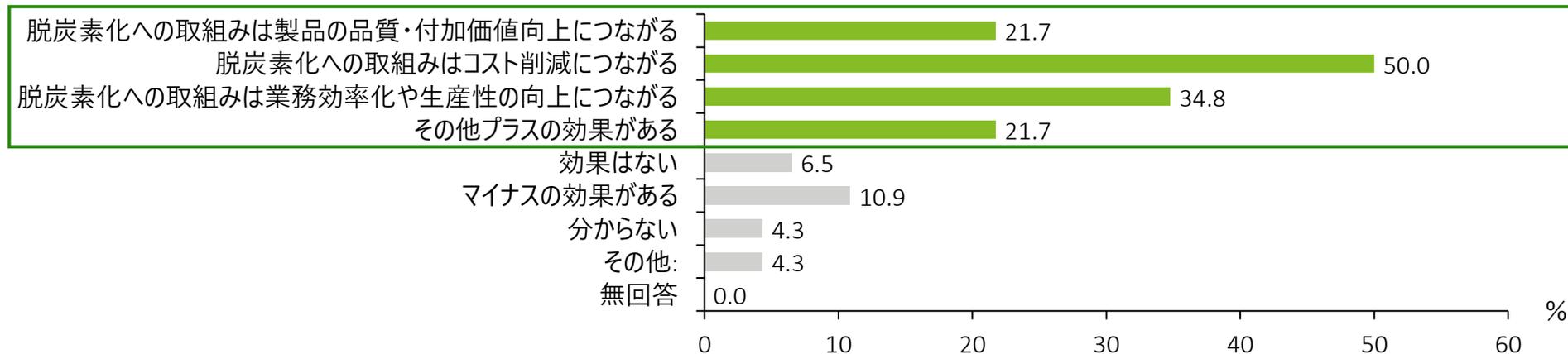


\* 単一回答

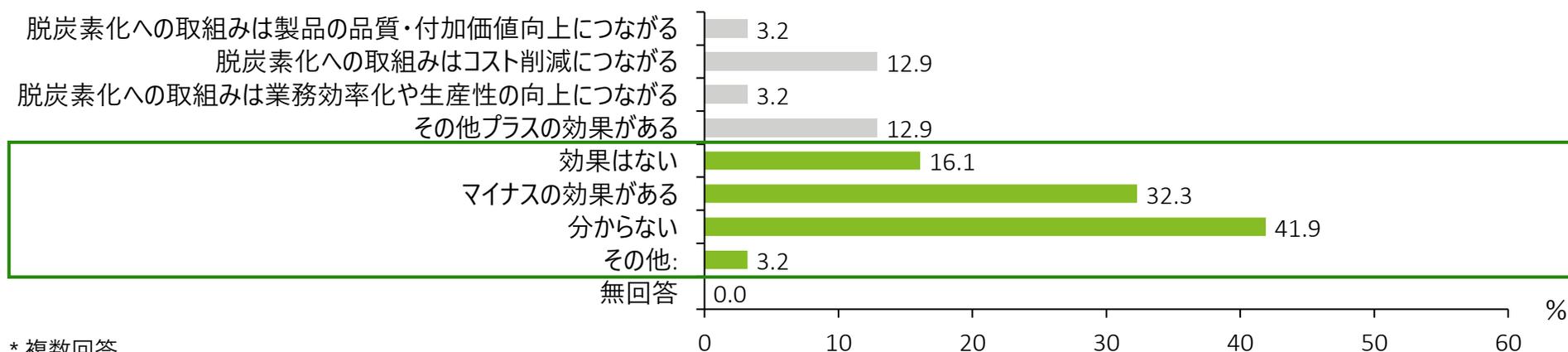
# 脱炭素化の取組に前向きな企業は、取組がポジティブな効果をもたらすと考えている一方、取り組む予定はない/わからないと回答した企業は、取組にネガティブな印象を持っている

## 脱炭素化に対する考え\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=46】



### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=31】



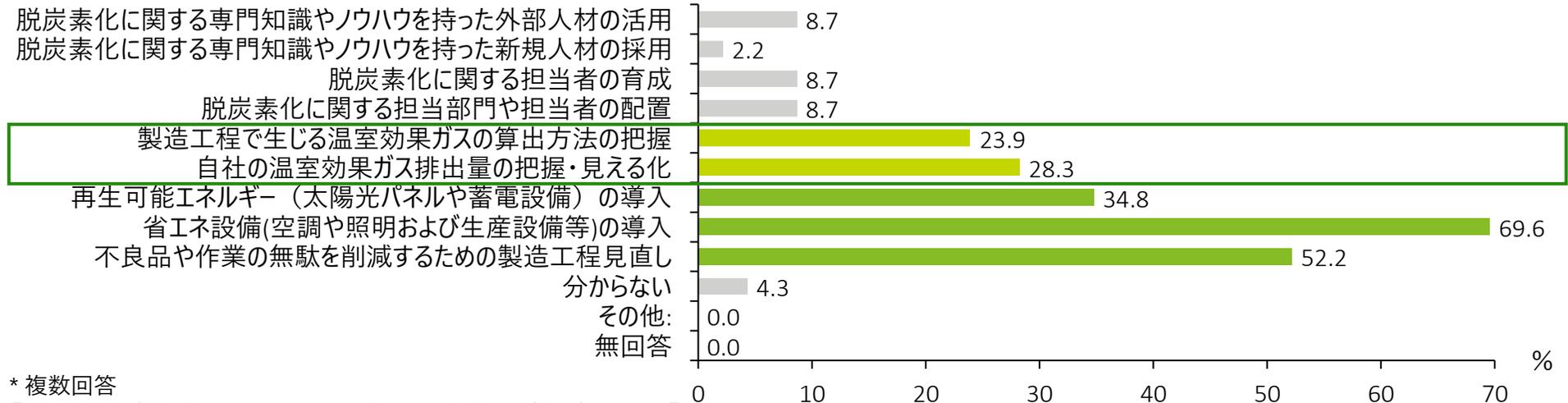
\* 複数回答

# 脱炭素化に向けた取組として、設備導入を行う/予定している企業が最も多い一方、温室効果ガスの算出方法・排出量の見える化等の現状把握の取組みはやや少ない

## 脱炭素化に対する取組状況

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=46】

脱炭素化に対する現在の取組み状況・今後の取組み予定\*



\* 複数回答

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=43】

取組の詳細・背景・理由

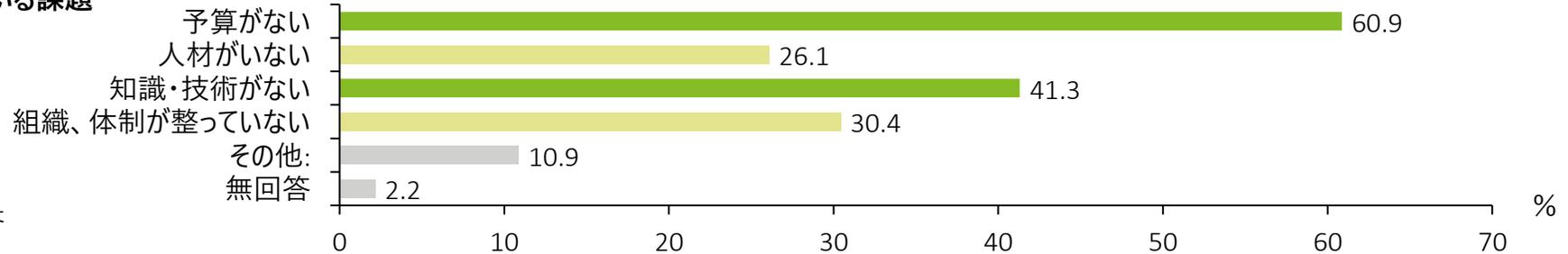
分類	自由記述内容例
設備導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 使用電力を低減する目的で太陽光発電の設置を行った</li> <li>■ 工場屋上に太陽光発電設備の設置。データ化による効率的な資源活用。全社の証明をLED化。ISO取得済でもあり、また、短納期・高品質を取引先から求められており、それに対応するための取り組みを含め効率化を高めようとしている</li> </ul>
脱炭素化と生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原油価格の高騰や円安による材料費の値上がりを背景に省エネ設備を導入し、更に不良品や廃材の再利用を進めることで、脱炭素化と生産性向上を両立させる</li> </ul>
脱炭素化に向けた意識づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 担当部門を決め、指標等の検討は開始した状況で一方では省エネについてはムダ取りを開始</li> </ul>

# 脱炭素化に向けた取組を行う上での課題として、CO2排出量等の現状把握や、取組の具体的な手段、取組を継続する上でのイメージが持てていないことが挙げられる

## 脱炭素化に対する取組みを進める上で認識している課題

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=46】

認識している課題\*



\* 複数回答

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=41】

課題の背景・理由

分類	自由記述内容例	件数
お金	「予算に限りがある為、一度に更新できる設備に限りがある。古い設備から順番に更新を行っている状態です」 <u>「限られた人材・予算・時間の中で、社員のモチベーション維持のためにも、新しい取組み内容を検討しながら継続することへの不安がある」</u>	18
脱炭素化の進め方等の理解	「どのような部分について、どのように進めていいのかが分からない」「本当に弊社として <u>脱炭素社会の改善に有効な手段を正しく理解出来ていない</u> 」「ノウハウ」	6
人材	「人材不足、求人募集しても集まらない」「何にしても人材不足が否めません。必要性の理解もなかなか及んでない」「中小企業なの人材・資金も限られ、 <u>専門部署&amp;専門人材を配置して脱炭素化に取り組むことは難しい</u> 」	4
脱炭素化に関する現状把握	「 <u>CO2排出量の算出方法</u> 」「 <u>正確な温室効果ガス排出量の把握</u> 」	3
経営等へのネガティブな効果	「投資対効果が出にくい」	3
その他	「エネルギー変換効率の良い設備の開発」「設備導入などに際して、スペースの確保が難しい。（不良品や廃材の再利用を進めるための設備は、単純な生産設備より大掛かりになる）」	7

# 地域サプライヤの現状と課題整理

- － 脱炭素化
- － 業務効率・デジタル化
- － 事業拡大
- － 人材育成（リスキリング）

マツダ(株)は、商品企画からサービスまでのバリューチェーン、調達から顧客までのサプライチェーン、この両チェーンでムダ／ムラ／ムリを取り除くことを推進している

投影のみ

マツダ(株)の原価低減とサプライチェーン強靱化、デジタル人材育成に向けた取組み

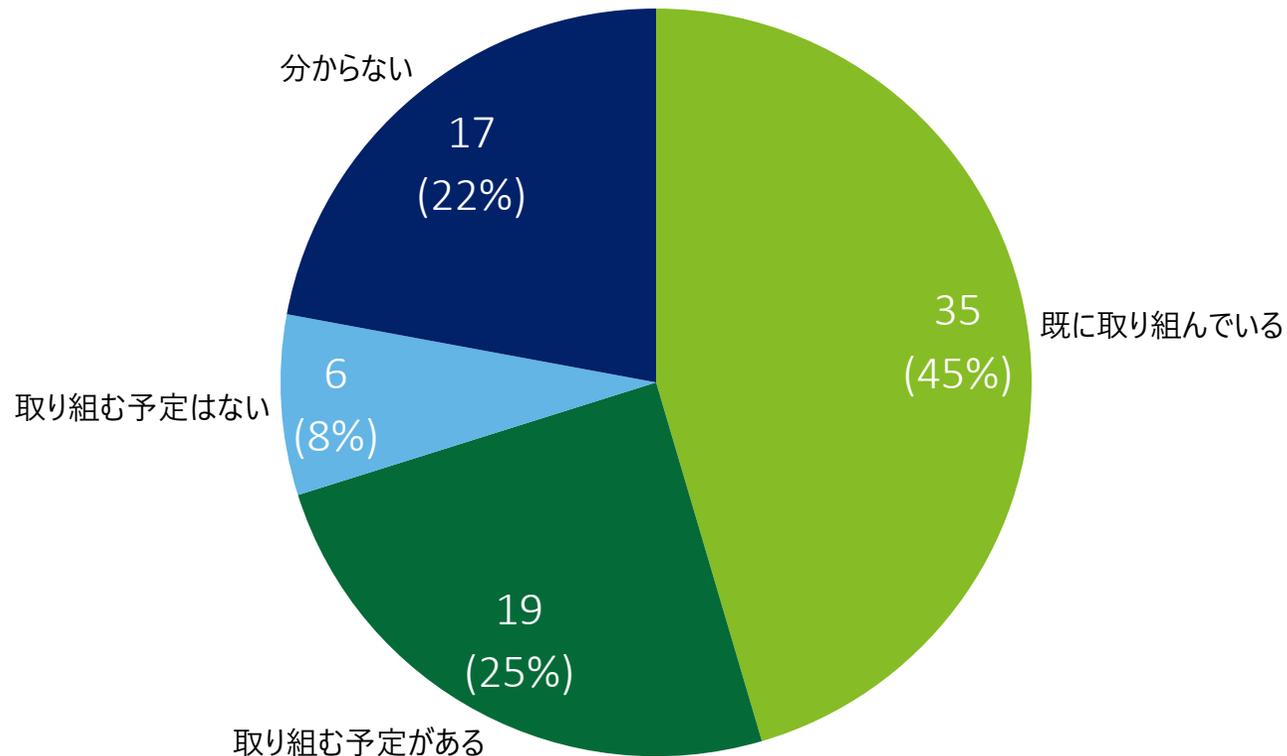


出所：「中期経営計画のアップデートおよび2030経営方針」（マツダ(株)、2022年11月22日）

# 業務改善・効率化に向け、70%の企業が取り組んでいる/取り組む予定があると回答している一方、30%の企業は取組がない状況である

## 業務改善・効率化に向けたデジタルデータの活用に係る取組み状況\*

【N=77】

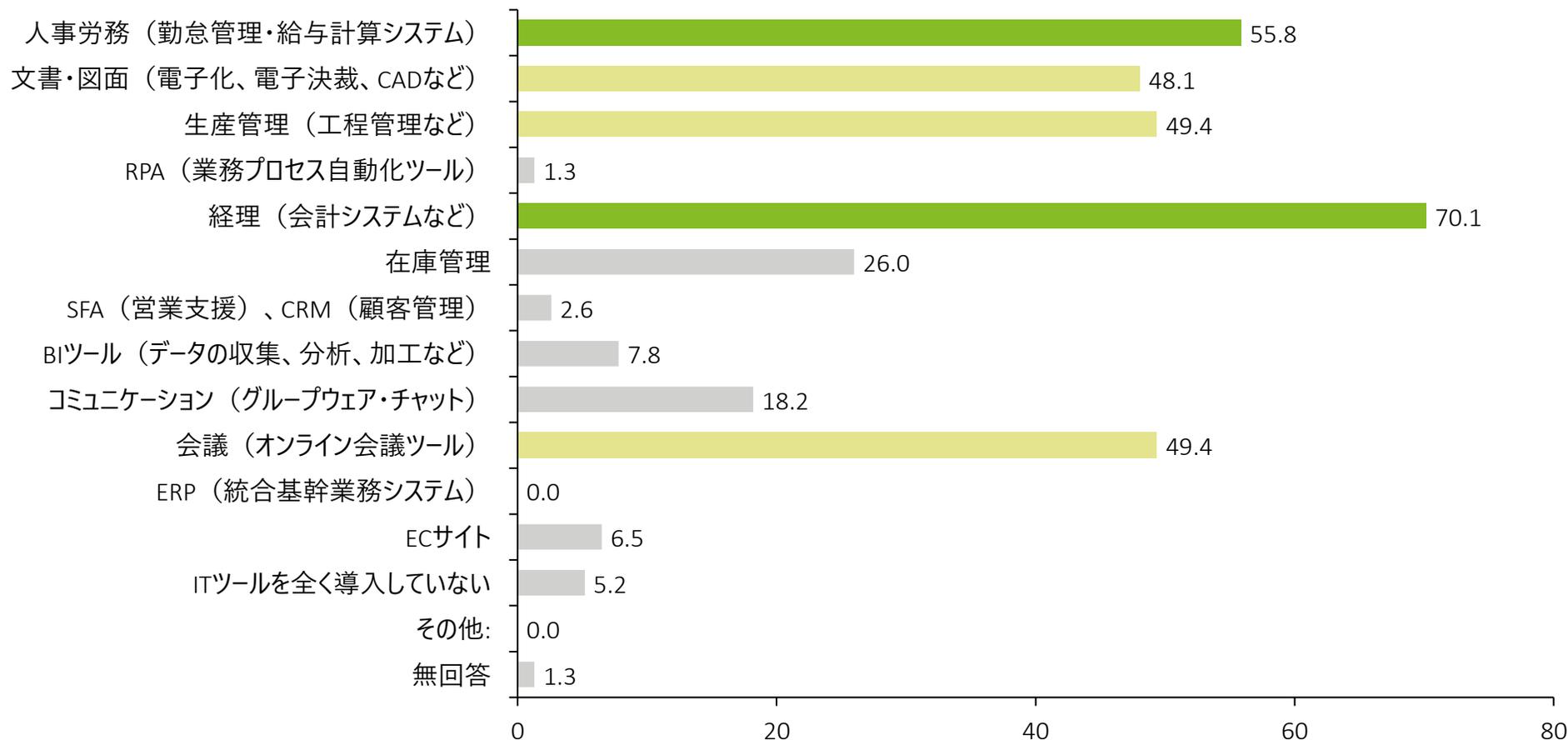


\* 単一回答

# 多くの企業でITツール導入は進んでおり、1stステップとして経理、人事労務システムの導入、2ndステップとして生産管理、会議、文書・図面等のツール導入を行っている

## 導入しているITツール\*

【N=77】

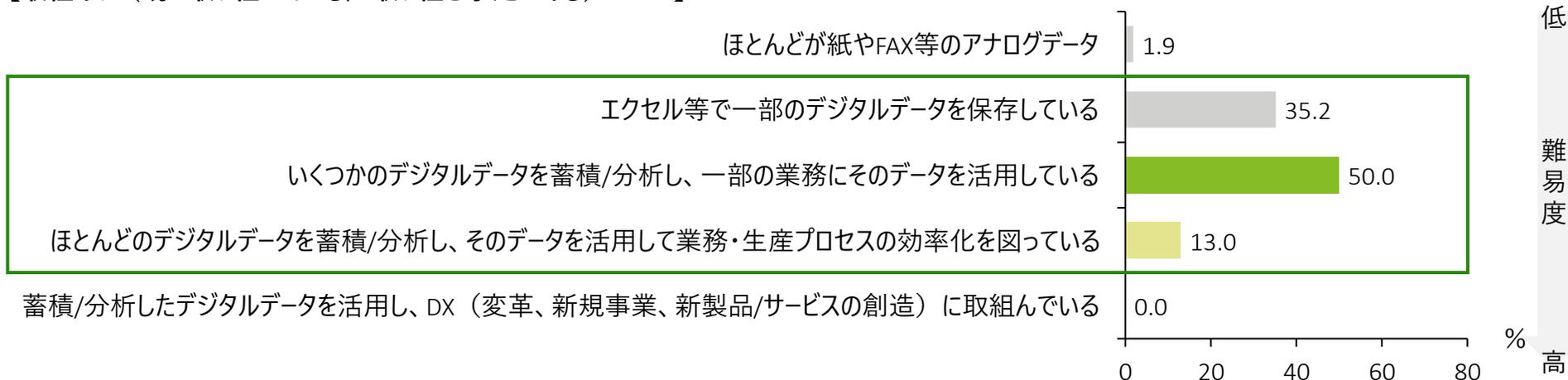


\* 複数回答

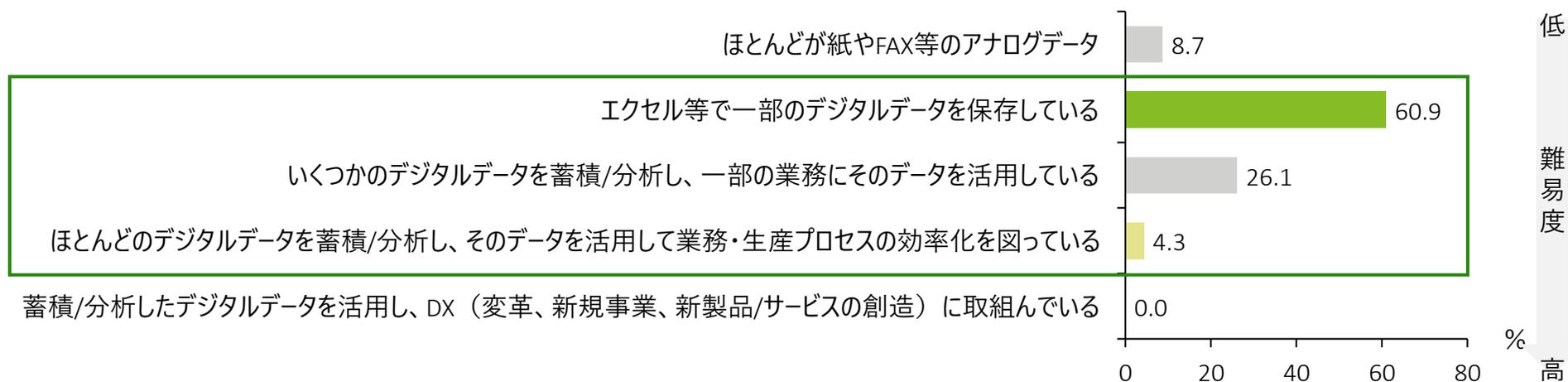
# 取組がない企業はエクセルで一部のデータを管理、取組がある企業はエクセルやデータ蓄積での管理を行っているものの、効率化に向けてデータ活用ができていない企業は限定的

## デジタルデータの取得・活用状況\*

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=54】



【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=23】



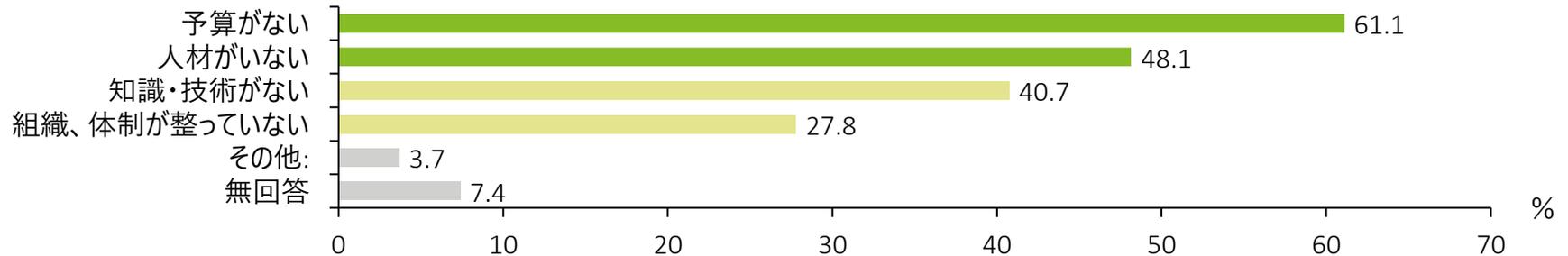
\* 単一回答

# 脱炭素化とは異なり予算の次の課題として、社内における業務効率化・デジタル化の取組推進を主導・運用していくデジタル人材不足が大きな課題となっている

## 業務効率・デジタル化に対する取組みを進める上で認識している課題

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=54】

認識している課題\*



\* 複数回答

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=44】

課題の背景・理由\*

分類	自由記述内容例
金銭	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 何をしても費用が掛かること。その費用は価格転嫁できないし、これからも益々必要な費用のため、どこから捻出するのか頭が痛い</li> <li>■ 相応のIT化を進めるためには百万単位の経費が必要</li> </ul>
デジタル人材の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ある程度は知識があるものの、デジタル化を進めていくうちに、多角的に幅広く知識がないと、全てをその人に任せることは出来ないし、社内だけで取り組むこともできない</li> <li>■ システムの導入までと、運用していくスタッフ不足（能力も）</li> <li>■ 社長一人だと活用まで持っていくのがなかなか難しいため、ある程度触れる人材はほしい</li> <li>■ 知識を有する者がいても別の業務で専任させられない</li> </ul>
優先順位が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日常業務に追われやりたいことが出来ていない</li> <li>■ デジタルデータの活用に専念できる人員がない（時間が取れない）</li> </ul>
取り組み方の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リアルタイムで製品の量・流れを把握する仕組みを作りたいが、実現可能な方法が分からない</li> </ul>

\* 自由記述

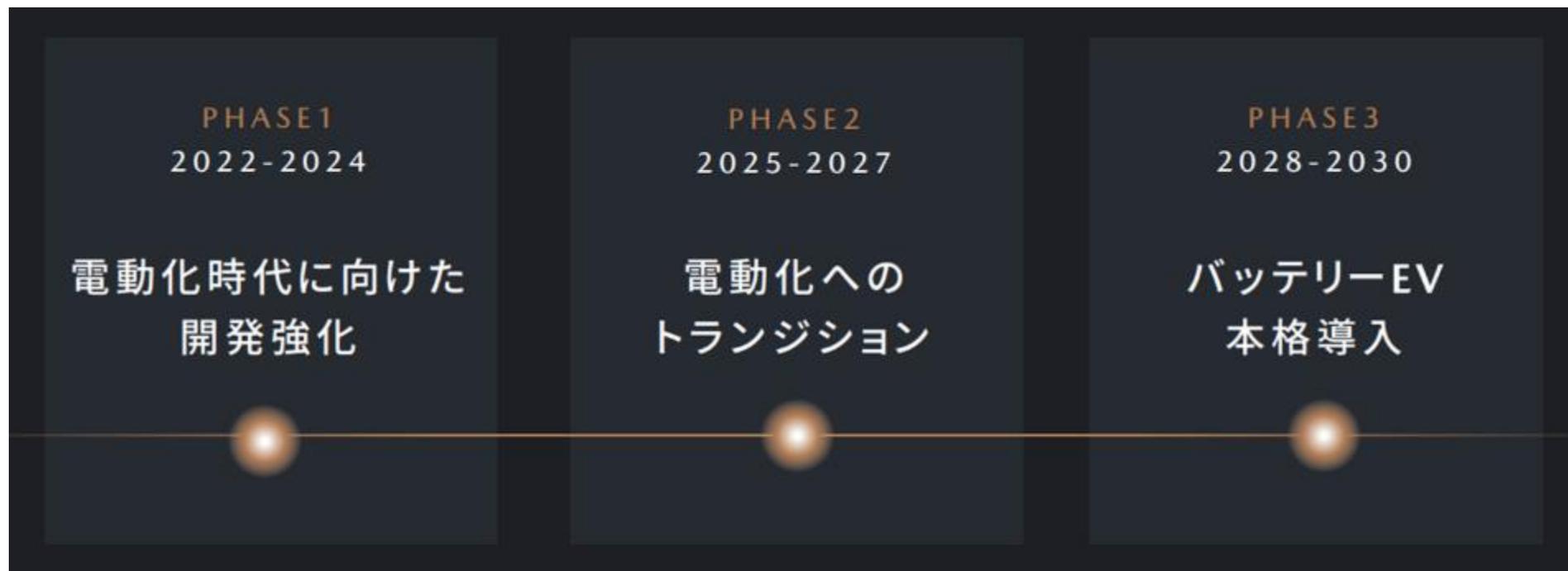
# 地域サプライヤの現状と課題整理

- － 脱炭素化
- － 業務効率・デジタル化
- － **事業拡大**
- － 人材育成（リスキリング）

マツダ(株)では、2030年に生産するすべての車に電動化技術を搭載することを掲げ、2030年時点の電気自動車比率を25～40%と想定している

投影のみ

## マツダ(株)の電動化に向けた取組み

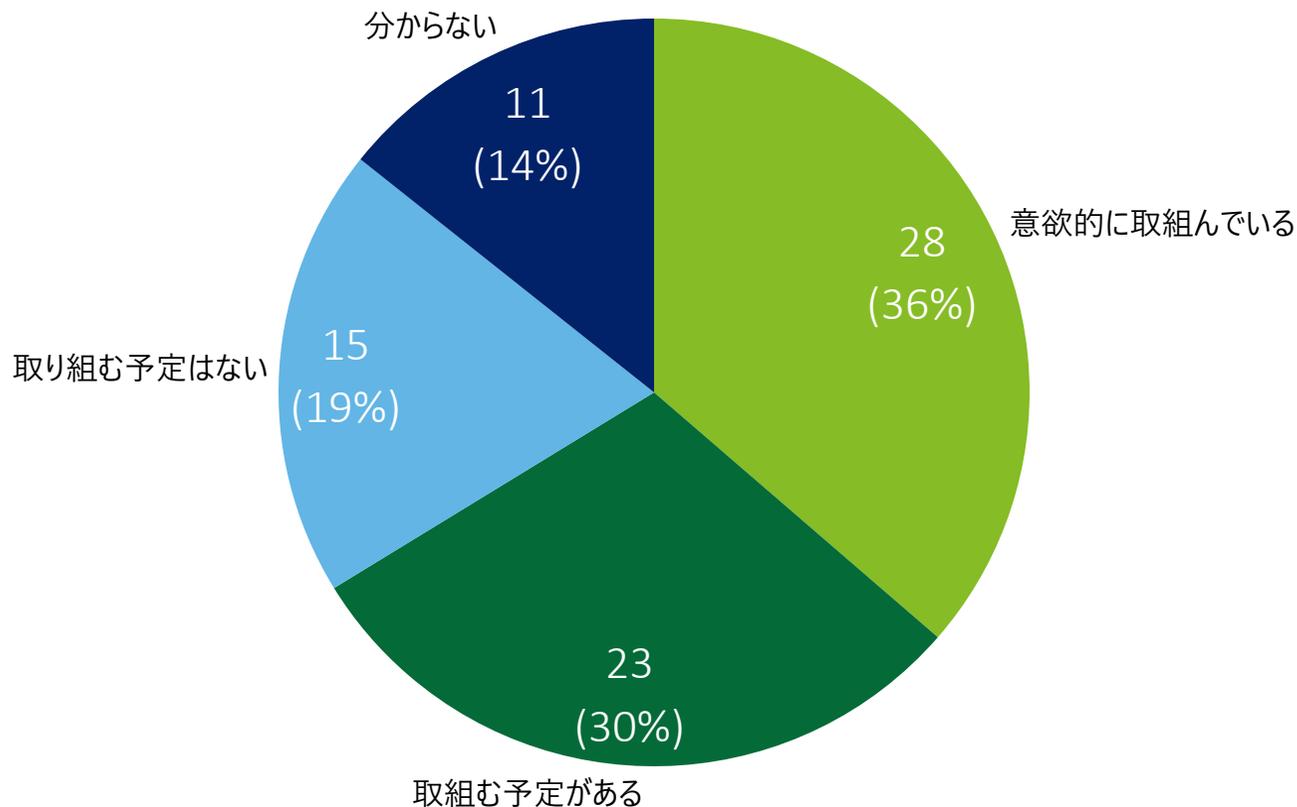


出所：「中期経営計画のアップデートおよび2030経営方針」（マツダ(株)、2022年11月22日）

# 事業拡大に意欲的に取り組んでいる、取り組む予定がある企業は全体の66%である一方、取り組めていない企業は全体の33%程度存在

## 事業拡大に対する取組み状況\*

【N=77】

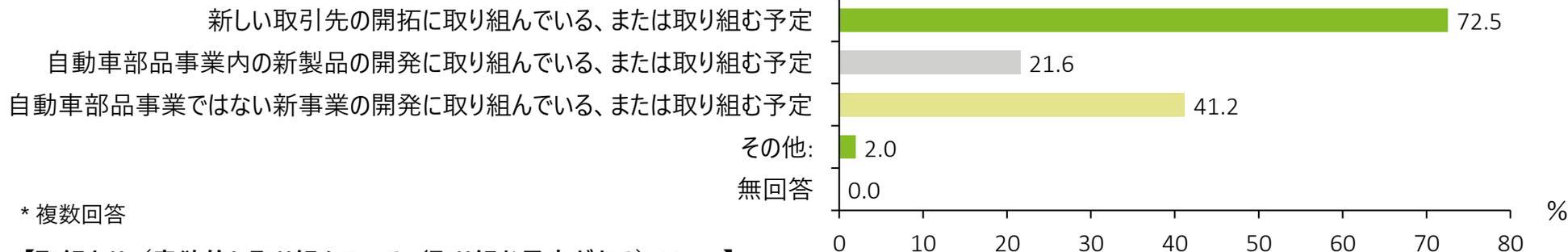


\* 単一回答

# 事業拡大に係る取組状況について、新しい取引先の開拓を行う企業が74%と最も多く、次に、新事業開発に向けた取組を行う企業が多くなっている

## 事業拡大に対する現在の取組み状況・今後の取組み予定\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=51】



\* 複数回答

### 【取組あり（意欲的に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=46】

#### 取組の詳細や背景・理由\*

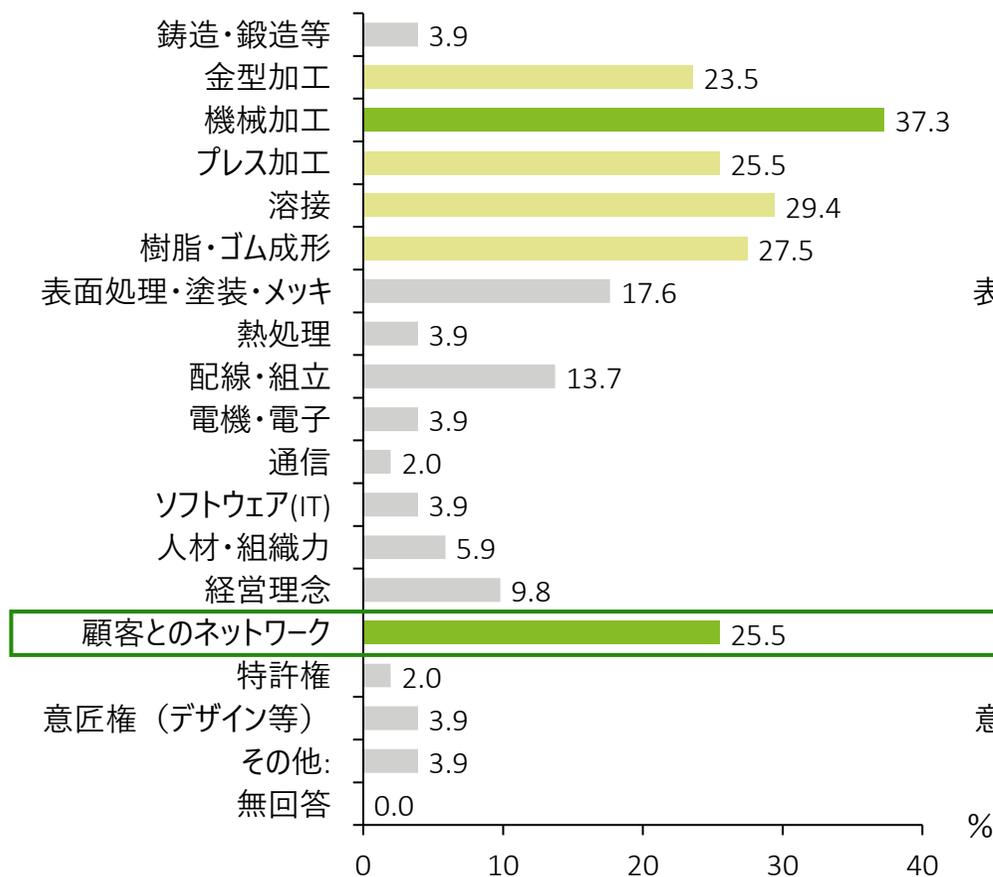
分類	自由記述内容例
マツダ以外の新規顧客開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ マツダ系列だけでは業況の平準化はできないと考えており、金型加工、機械加工、溶接等の技術を生かし、他メーカーとの取引拡大を行い、事業拡大につなげている</li> <li>■ <u>顧客とのネットワークという強み</u>を生かし、既存の取引先(仕入先)からの紹介で<u>新規顧客を得た</u></li> </ul>
自動車部品事業以外への事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車部品部門が衰退傾向にあるため、<u>自動車部品関連技術を活用し、産業機械部品の精密切削加工に進出</u>している</li> <li>■ 自社の事業の認知拡大を中心に製造業の工程改善につながる製品を提供したい。自動車産業に左右される自社の経営状況の改善を目指したい</li> <li>■ 2035年に向けEV車の普及が加速し、取り扱い部品点数の減少も急速に進むことから、数年前から<u>再生（太陽光発電）エネルギー事業へ取り組んでいる</u></li> <li>■ <u>機械加工、プレス加工、溶接、金型加工等の技術と顧客とのネットワーク等の強み</u>を生かし、<u>機械加工やエネルギー関連事業が徐々に成長</u>している</li> </ul>

\* 自由記述

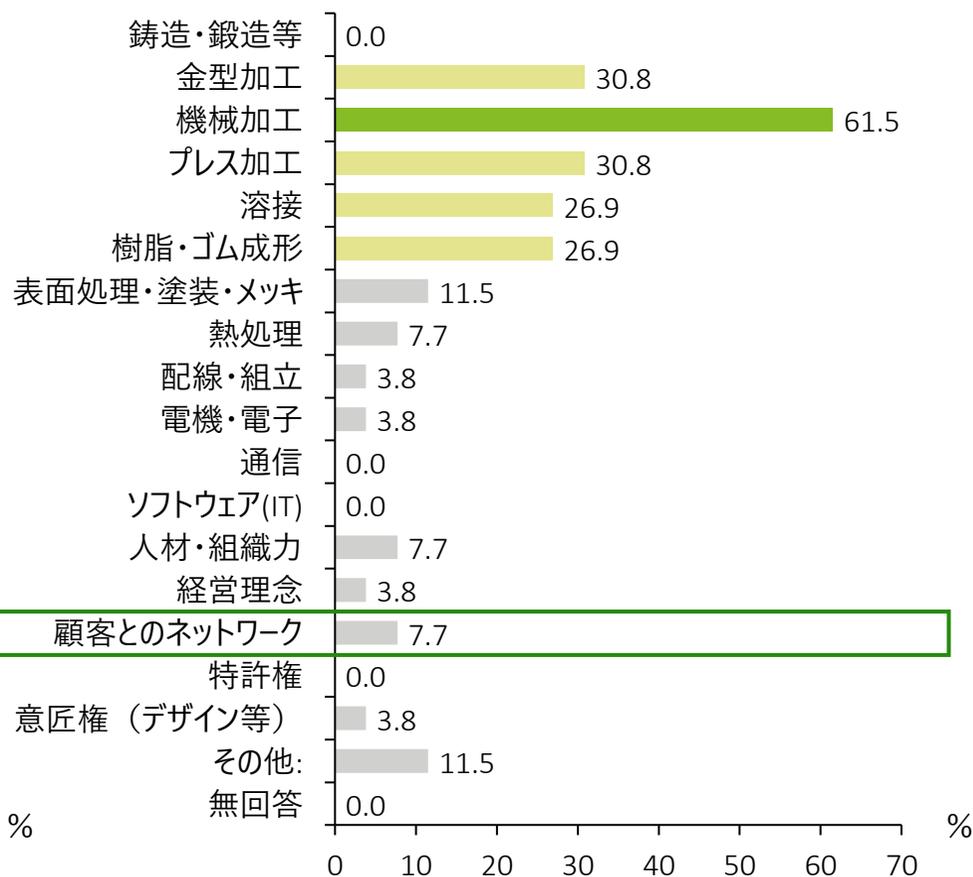
# 取組がある・ない企業ともに保有技術の傾向に大きな差はないものの、取組みがある企業については顧客とのネットワークを強みとして認識していることが伺える

## 保有されている技術\*

【取組あり（意欲的に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=51】



【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=26】

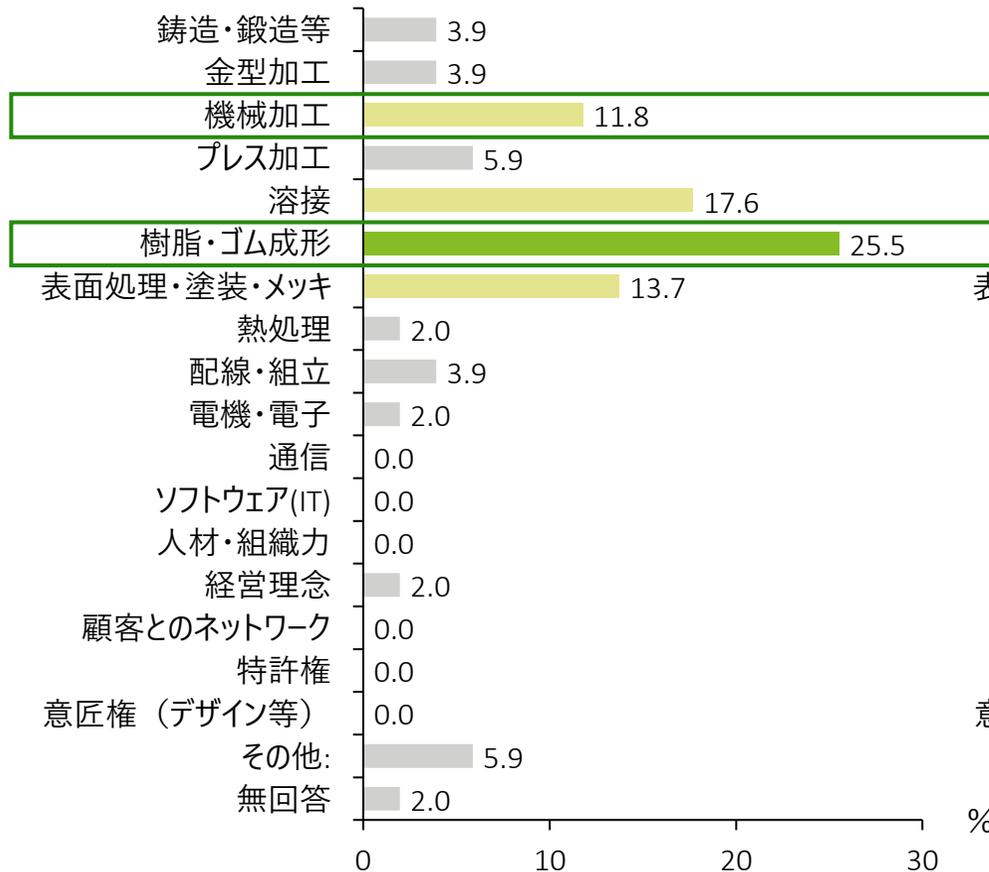


\* 複数回答

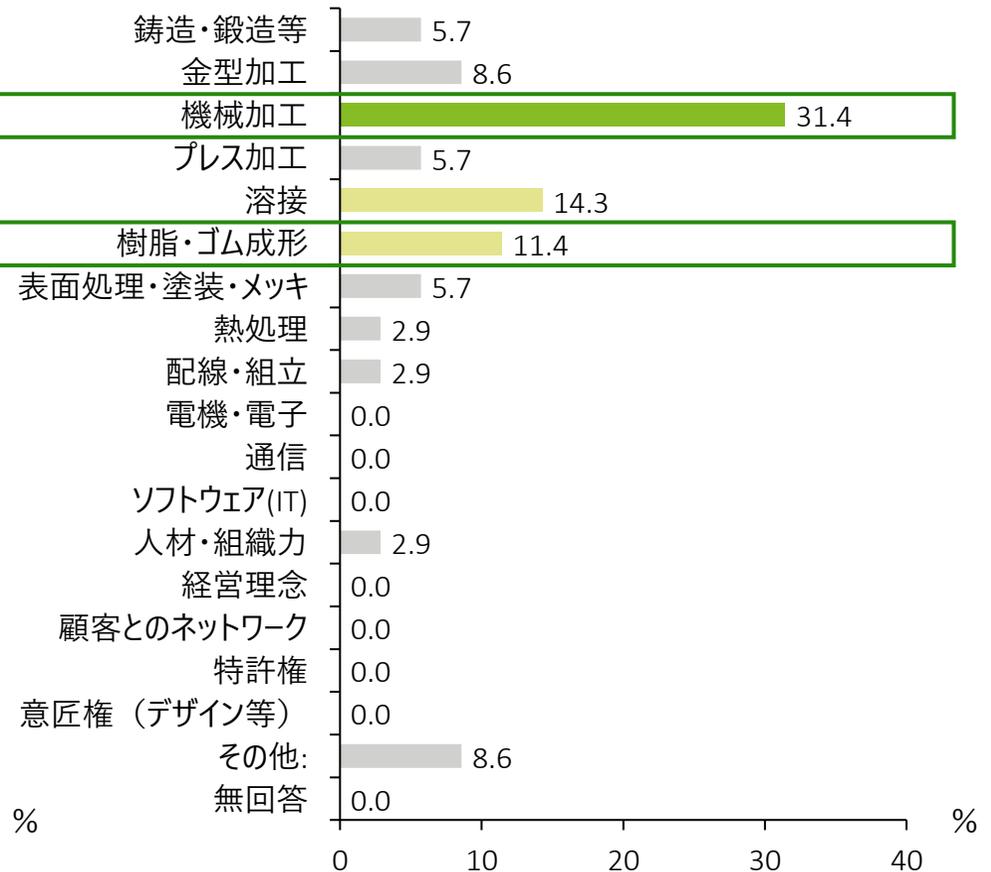
また特に樹脂・ゴム成形に強みを持つ企業で事業拡大の取組みが多く、一方で取組みができていない企業の多くが、機械加工を主たる強みとしていることが伺える

保有技術・強みの中で、最も貴社が強みを持つもの\*

【取組あり（意欲的に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=51】



【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=26】



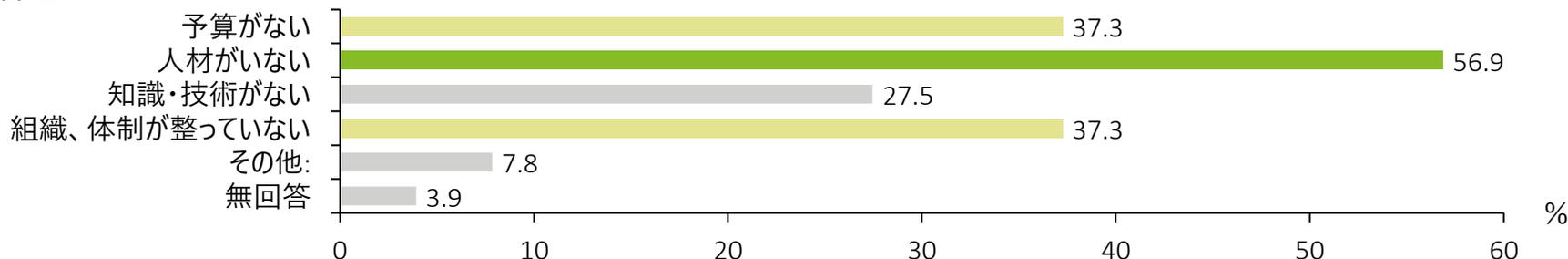
\* 単一回答

# 脱炭素化や業務効率・デジタル化と大きく異なり、予算よりも、事業拡大を進める上での営業人員不足の課題が大きく、また取組みを進め方や自社の強みの理解不足も伺える

## 事業拡大に対する取組みを進める上で認識している課題

【取組あり（意欲的に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=51】

認識している課題\*



\* 複数回答

【取組あり（意欲的に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=46】

課題の背景・理由\*

分類		自由記述内容例
取組 開始前	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>新たな事業に専念できる人員の余力が無い</u></li> <li>■ ハローワーク等で募集し入社するものの、なかなか定着しない</li> <li>■ <u>営業に専任する人材がない</u></li> </ul>
	取組を進める上での自社の強み、進め方がわからない	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規開拓するにあたり、どのように進めていけば、効果的なのが分からない</li> <li>■ 新規開拓領域における<u>専門知識の取得</u></li> <li>■ 電動化に関する部品はどの企業も受注にむけ動いておりコスト的にレッドオーシャン状態なのでその中でどういった優位性が出せるか</li> </ul>
取組 開始後	業界知見やネットワーク不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 販売ルート人脈の構築からの販路拡大及び広島県域外への供給網の整備が課題であります</li> <li>■ これまで無縁の業界に参入しているため、まだ<u>知見の不足</u>を感じる</li> <li>■ ツテが無いと新規の顧客開拓はハードルが高いため、<u>商談会など仲介の場が多いとありがたいです</u></li> </ul>

\* 自由記述

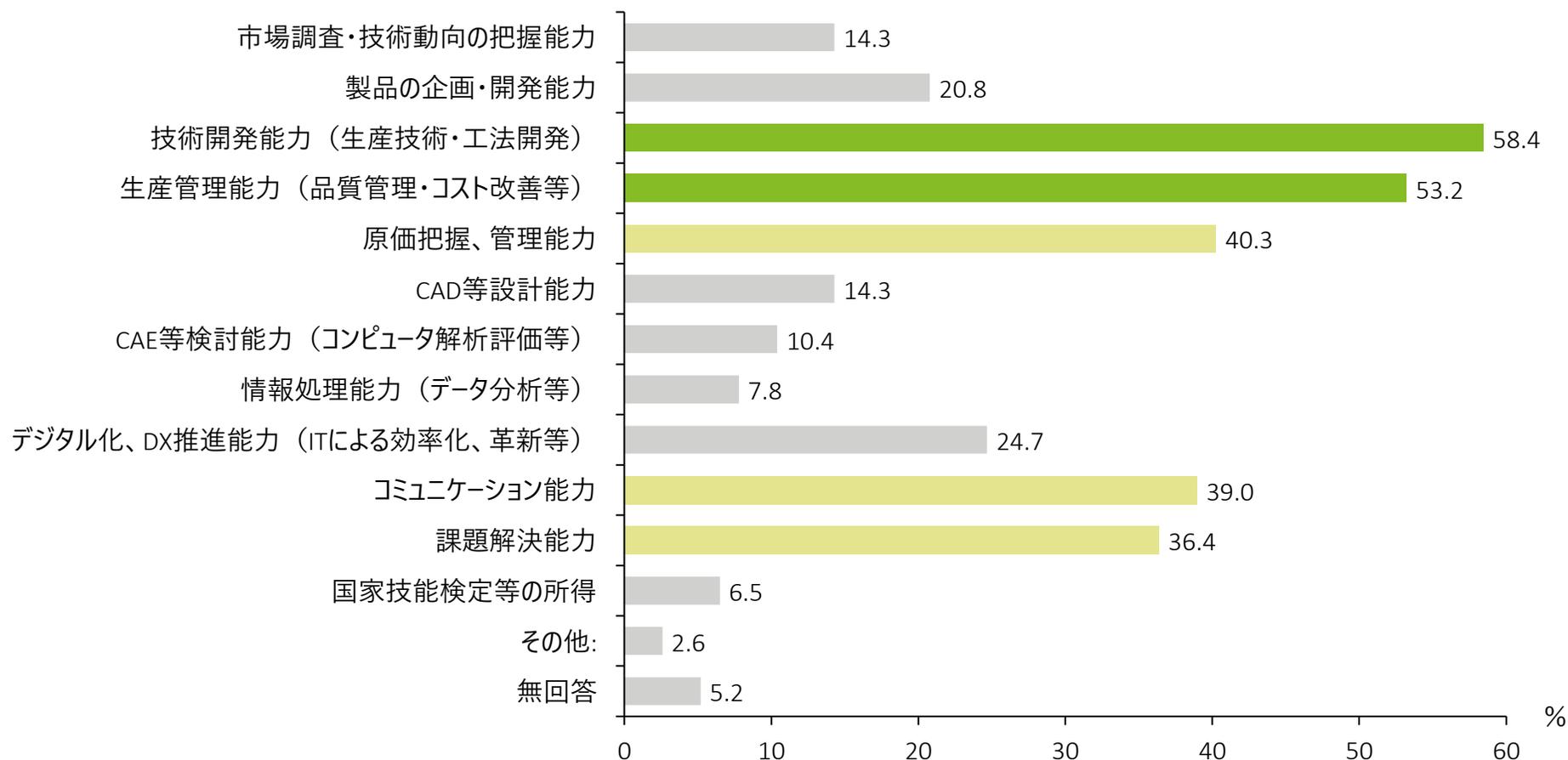
# 地域サプライヤの現状と課題整理

- － 脱炭素化
- － 業務効率・デジタル化
- － 事業拡大
- － 人材育成（リスキリング）

# 従業員のスキルアップとして、技術開発能力、生産管理能力が最も多く求められている一方で、コミュニケーション能力、課題解決能力等のビジネススキルも重要視されている

## 従業員にどのようなスキルアップを求めるか\*

【N=77】

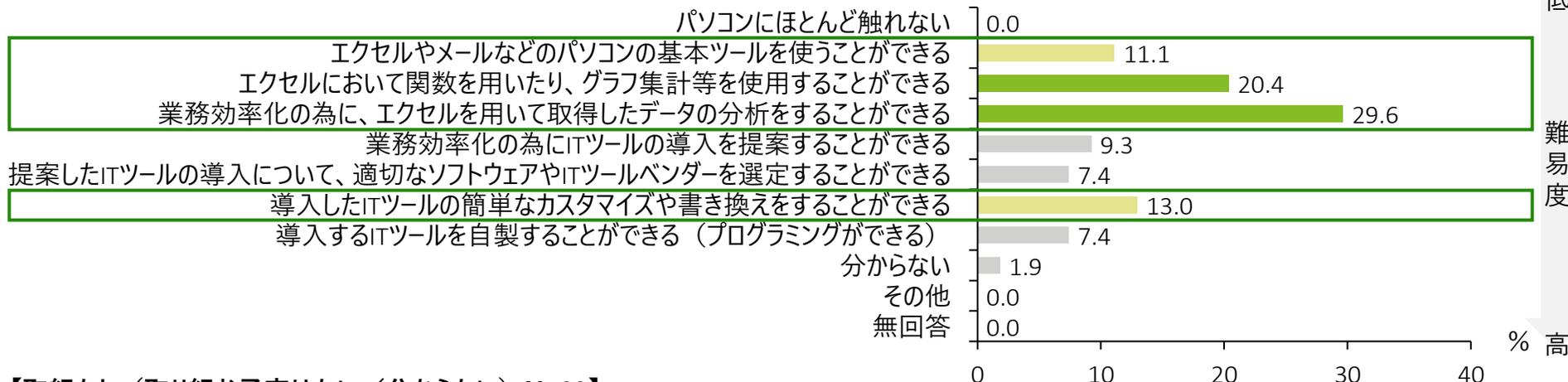


\* 複数回答、上位3つまで

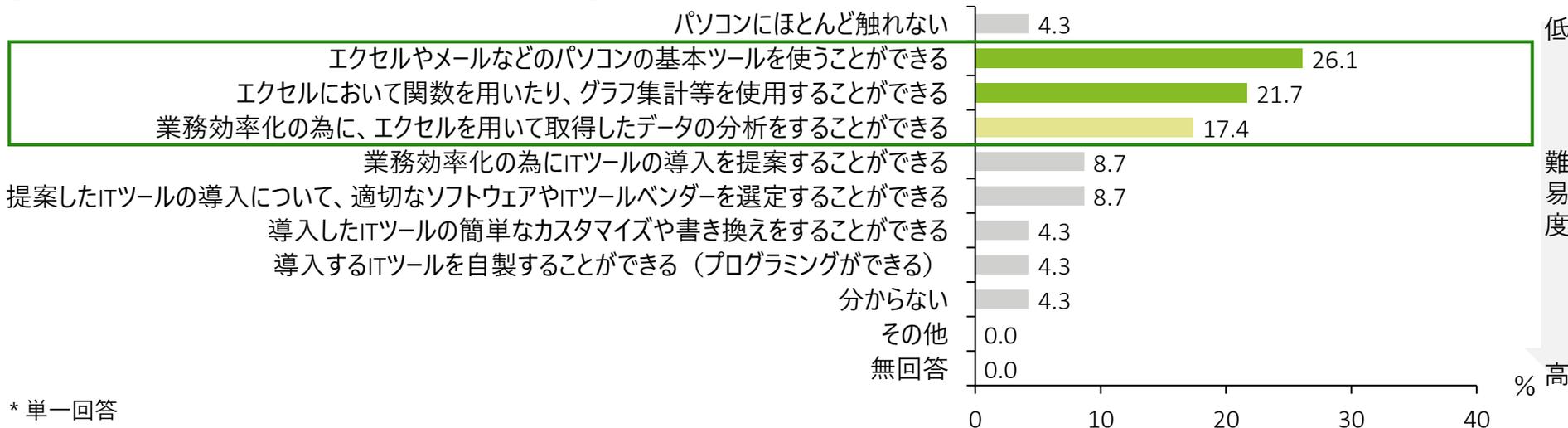
# 業務効率・デジタル化の取組がある企業では、取得したデータを一定活用できる人材がおり、取組みができていない企業ではパソコンにほとんど触れない状況も一定存在

## 貴社におけるデジタル人材\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=54】



### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=23】

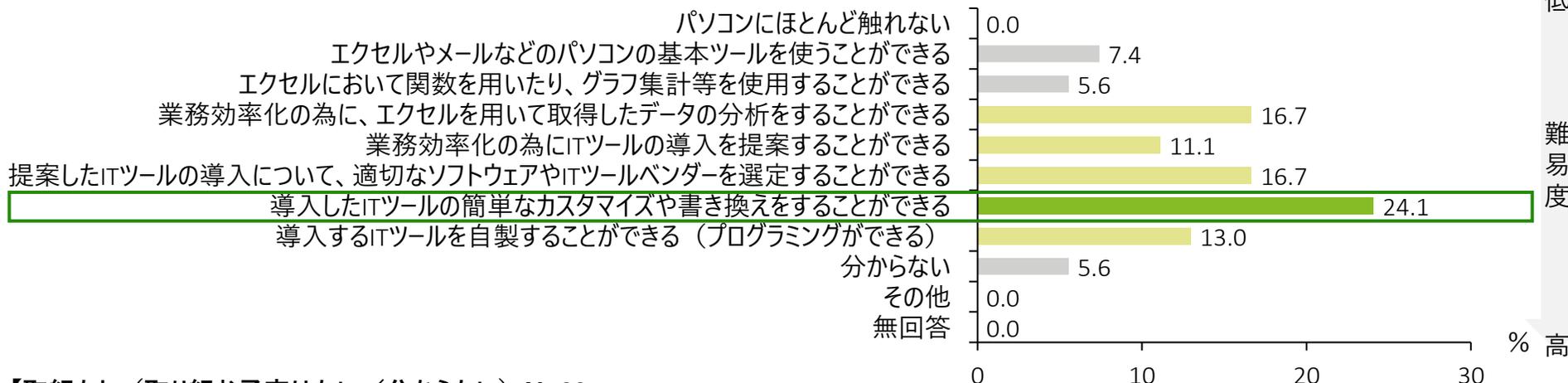


\* 単一回答

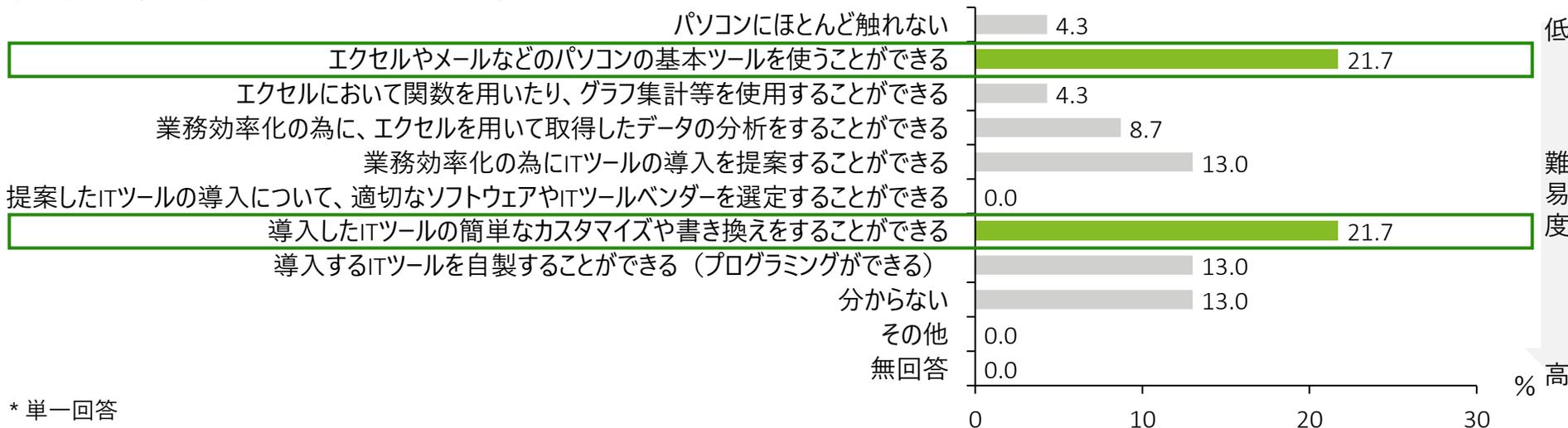
# 取組がある企業・ない企業共に、導入したツールの簡単なカスタマイズが可能な人材を求めており、取組みがない企業ではパソコン基礎スキルの習得を希望する企業も多い

## 貴社が求めるデジタル人材\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=54】



### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=23】



\* 単一回答

# 働きやすい環境の整備や理念経営等、人材の定着・確保、及びモチベーション向上を図った上で、業務効率・デジタル化や事業拡大に向けた人材の育成施策を行うことが肝要

## グループワーク「共通課題討議」における意見・課題

分類	共通課題討議での意見例
人材育成全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 採用が難化している、中途も定着しない（3年未満で退職）為中間層（30-40代）がいない状況において、働きやすい環境の整備、多様な働き方の推進が必要</li> <li>■ モチベーションが低下している人材が多く、社員を中心とした理念経営を再構築・浸透させることが必要</li> </ul>
守り （業務効率・デジタル化）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 言われたことだけしかできずに自律的に動けない、コミュニケーションを取ることが難しい人材が増加しており、自発的に動ける人材を育てる為のコーチスキルが必要</li> <li>■ 作業時間も時間も不足している、考えられる人も時間も不足している、時間がないが故に仕事を止めるリスクをとりにくい為、そのような状況でも可能な育成手段が必要</li> </ul>
攻め （事業拡大）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術者はいるがマネジメントや協業を推進できる人材がいない、営業やマネジメントを行える人材の育成が必要</li> <li>■ 営業人材がいないため、新規開拓は社長が実施するほかない状況である為、営業の為の人が足りないことへの対策と能力が足りないことへの対策が必要</li> </ul>

# 次年度実証事業化に向けた初期検討

# 共同スキームでは、協調領域模索の為の信頼関係構築、コア技術・強み整理では、共創を含む各社のコア技術・強みを活かした“魅せる事業計画”策定がネクストアクション

## 次年度実証事業化に向けた初期検討（まとめ）

### 共同スキーム研究会

- 全体討議では、特に「コスト削減・生産性向上」について多くの問題意識があることが分かり、その他「事業拡大・技術革新」、「人材確保・育成」に関する事柄も挙がった
- 問題からさらに深掘りしていくと、問題解決の為の知識・知見が足りない、問題解決を行える人材がいない、育てていないことが多くの課題に対する要因と認識されている状況
- さらに課題・ニーズの検証を進め、対策案の精度を高めていくことが肝要であり、また特に「コスト削減・生産性向上」は主たる競争領域であることから、まずは共同スキームを実施していく上での信頼関係構築が必要と思慮

### コア技術・強み整理

- 広島市のモノづくり産業が創出している主たる価値は、「汎用設備を活用した形状を選ばないEnd to Endでの部品製造」、「専用設備を活用した高品質・低価格・短納期での部品製造」と想定
- これらの価値創出にあたる強みは、「設計開発・提案力」、「製造設備・工程の改善力」、「きめ細やかな生産管理力」、「仕入れ先・顧客との強固なネットワーク」が挙げられる
- 自社のコア技術・強みの整理結果を踏まえ“魅せ方”を検討しつつ、目的に沿った形で自社に足りない要素を補いながら、また共創しながら新たな事業拡大を目指すことが肝要

# 次年度実証事業化に向けた初期検討

－ 共同スキーム研究会

－ コア技術・強み整理

# 問題からさらに深掘りしていくと、問題解決の為の知識・知見が足りない、問題解決を行える人材がない、育っていないことが多くの課題に対する要因と認識されている状況

## 共同スキーム（グループワーク結果）

問題・困りごと		討議で出た問題に対する課題	課題分類
コスト削減・生産性向上	業務・生産プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 従業員のコスト意識を高める</li> <li>■ 業務・生産プロセスの簡略化・見直しを行い、工数削減につなげる</li> </ul>	コスト意識の醸成 プロセス改善
	生産設備自動化・保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設備故障を防ぐため、設備保全に係る専門知識を有する人材の確保等を行い、設備チェックのやり方を改善する</li> <li>■ 新しい設備を導入検討するうえでの知見を持つ</li> </ul>	設備に係る知識人材の確保
	生産作業者品質・効率	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生産管理のロス（ムダ、ムラ）を削減し、品質を一定にする</li> <li>■ 品質管理を行う人材の育成または確保を行う</li> <li>■ 現行法律に関する専門知識を有する人材がない</li> </ul>	品質管理を行う人材育成・確保
	デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ デジタル化の取組を定着すべく、デジタル化の必要性を社内に浸透させる</li> <li>■ 省人化、自動化、デジタル化に向けた取組を検討・実行する人材を育成・確保する</li> </ul>	デジタル化意識の醸成 デジタル人材の育成・確保
技術革新・事業拡大	先端技術導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 目標設定・達成度の確認を行い、PDCAサイクルをまわす意識醸成を行う</li> <li>■ 事業計画や毎月、毎年の目標設定・振り返りの仕組みづくりを行う</li> <li>■ 社員に他社との交流を行う機会を提供する</li> <li>■ 必要なときに法律等の専門知識を持っている人材を確保する</li> </ul>	目標設定・振り返り 知識人材の確保
人材確保・育成	従業員能力開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社内人材の育成に向け、教育体制（プログラム、教育者含む）を整備する</li> <li>■ 従業員が問題提起・問題解決スキルを身に着けるための教育環境を整備する</li> <li>■ 社内で問題提起をする人材の不足</li> </ul>	教育機会づくり 問題解決スキルの改善

# 特に「人材研修・採用」、「専門人材の共同利用」、「IT・サービスの共同利用」が共同スキームとして議論を進めていくべきテーマと想定

## 広島市での共同スキーム案

優先度の高い 共同スキーム	共同での 人材研修・採用	業務・生産プロセスの問題発見・課題解決、生産設備の改善、デジタル化等 QCDの継続向上に意欲的な人材の定着・育成・確保
	専門人材の 共同利用	設備保全・メンテナンス、デジタル化導入等のスポット的に必要な専門人材の 共同利用
	IT・サービスの 共同利用	上記人材面での課題解決に向けて必要なサービスの共同利用
次優先の 共同スキーム	情報ノウハウの 共有	同業における業務改善の成功事例・失敗事例、先端技術等の共有 作業者品質向上の為の標準マニュアル等ノウハウの共有

# まずは課題・ニーズの検証を進め、対策案の精度を高めていくこと、また共同スキームを実施していく上での信頼関係構築が必要と思慮

## 共同スキームとして今後検討が必要な論点

### 課題・ニーズの検証

- 従業員のモチベーション不足や意識不足となっている要因は何か
  - 不足する人材の要件は何か、現状の人材配置は適切か
- ⇒従業員への意識調査・実態調査や業務・生産プロセスと人員状況の棚卸しと分析による課題・ニーズの検証

### 具体策な対策案検討 ／実証・効果検証

- 課題に対して想定されうる対策内容は何か
  - 効果検証としてどのような評価軸で評価検証をすべきか
- ⇒対策内容の案出しと合意形成（従業員・関連ステークホルダー等）

### マッチング ／共同スキーム化

- 自社・他社の中で有効的に活用できるリソースはないか
  - どのような形で実現していくか、事業化を推進していくべきか
- ⇒共同での事業検討を進める上での、信頼関係構築

# 次年度実証事業化に向けた初期検討

－ 共同スキーム研究会

－ コア技術・強み整理

# 広島市には、企画・設計から物流・サービスまで一貫して、様々な寸法や材質に対応できる確かな技術力を活用し、短納期かつ安く、大量生産を行うことができる強みがある

## コア技術・強み（グループワーク結果）

コア技術・強み			取組の方向性
技術	量産技術 鋳造・鍛造等 金型加工 機械加工 プレス加工 溶接	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企画、設計段階から<b>試作を重ね、問題の分析・改善</b>を行い、確かな品質のものを<b>量産</b>する技術を有している</li> <li>■ 様々な寸法や材質のものを<b>大量に加工</b>する技術を有している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 量産技術を有していることを<b>PRする場</b>を設けることで、さらなる事業拡大を目指す</li> <li>■ また、調達時や協議体において<b>他の企業とのつながり</b>を持てるようにし、<b>新規顧客獲得につなげる</b></li> </ul>
	試作技術 樹脂・ゴム成形 表面処理・塗装・ メッキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>様々な寸法や材質のものを加工</b>する技術を有している（曲げる技術等）</li> <li>■ 鉄板であれば作れないものはない等、<b>特定の材質・形状であれば基本カバー</b>できる技術を有している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新たな顧客獲得等につなげるため、様々な顧客のニーズに合ったものづくりを可能とする確かな<b>技術力</b>をPRしたり、<b>ビジネスマッチング</b>等を検討する</li> </ul>
非技術	経営理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社長の経営理念として、従業員の<b>チャレンジ精神</b>を大事にしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新事業等への展開に<b>チャレンジ精神</b>を生かして取組を検討していく</li> </ul>
	生産力・品質力 人的資本 組織資本 関係資本	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 女性従業員が多く、細やかな作業、相手の考えをくみ取った対応ができており、<b>既存事業の下支え</b>となっている</li> <li>■ 外国人従業員が多く、生産キャパの下支えとなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 既存事業に注力しており、現在の人材では<b>新規事業等のその他の取組にまわすほどの余力</b>が知見がないことから、<b>外部人材の活用</b>や<b>社内人材の育成</b>を検討する</li> </ul>
	安さ・スピード	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企画・設計から物流まで<b>一貫して、短納期で安く</b>行うことができている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一貫して自社で企画、製造、販売等を行っており、かつ、短い期間で安く提供できていることをより<b>外部にPR</b>する</li> </ul>

主たるコア技術・創出している価値は、「汎用設備を活用した形状を選ばないEnd to Endでの部品製造」、「専用設備を活用した高品質・低価格・短納期での部品製造」と想定

主たるコア技術・創出している価値

広島市の自動車サプライヤが  
創出している価値

汎用設備を活用した**形状を選ばないEnd to Endでの部品製造**

専用設備を活用した**高品質・低価格・短納期での部品製造**

自社のコア技術・強みの整理結果を踏まえ“魅せ方”を検討しつつ、目的に沿った形で自社に足りない要素を補いながら、また共創しながら新たな事業拡大を目指すことが肝要

投影のみ

## 自社のコア技術、強みを整理する

トモニ、創る。 

□ 自社の強みを新分野で活かすために

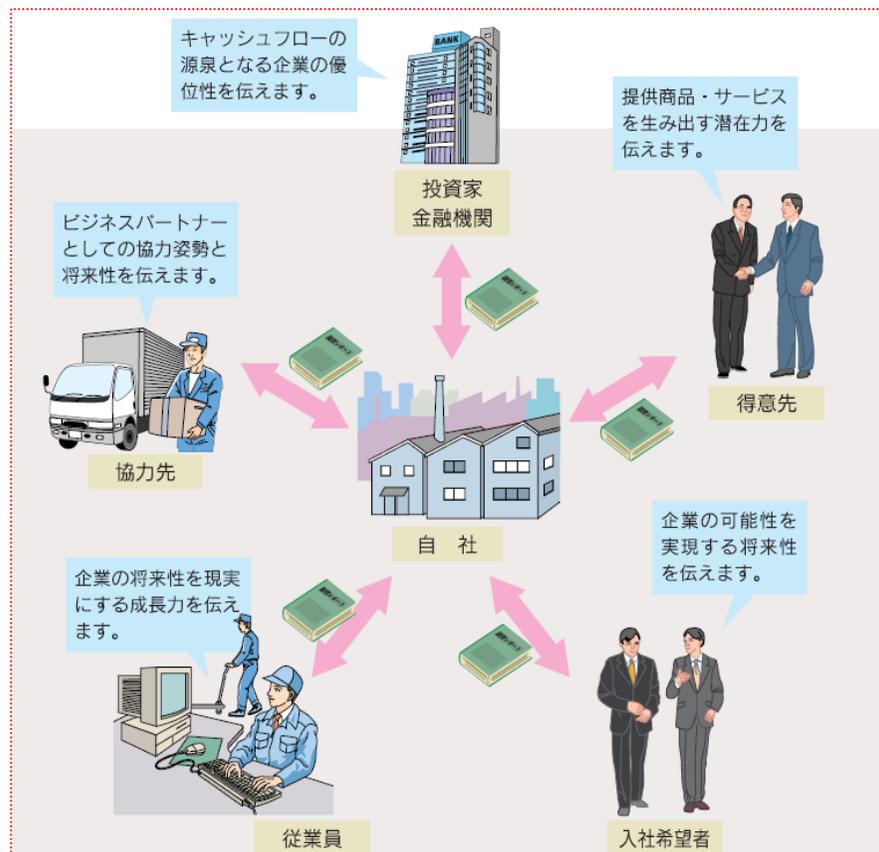
自社のコア技術・強みを整理する



自社のコア技術・強みを魅せる化する（伝え方を考える）



ステークホルダー（利害関係者）と共に自社のコア技術・強みを活かす



自社だけでなく、関係先と共に新たな展開を考える：価値共創

# まとめ

# 脱炭素化はすべての企業が前向きに取り組める状態、業務効率デジタル化はリスクリグ ニーズに応える環境整備、事業拡大は有望な事業再構築プランの構築を目指す

## まとめ（課題・ニーズと来年度以降の目指す姿）

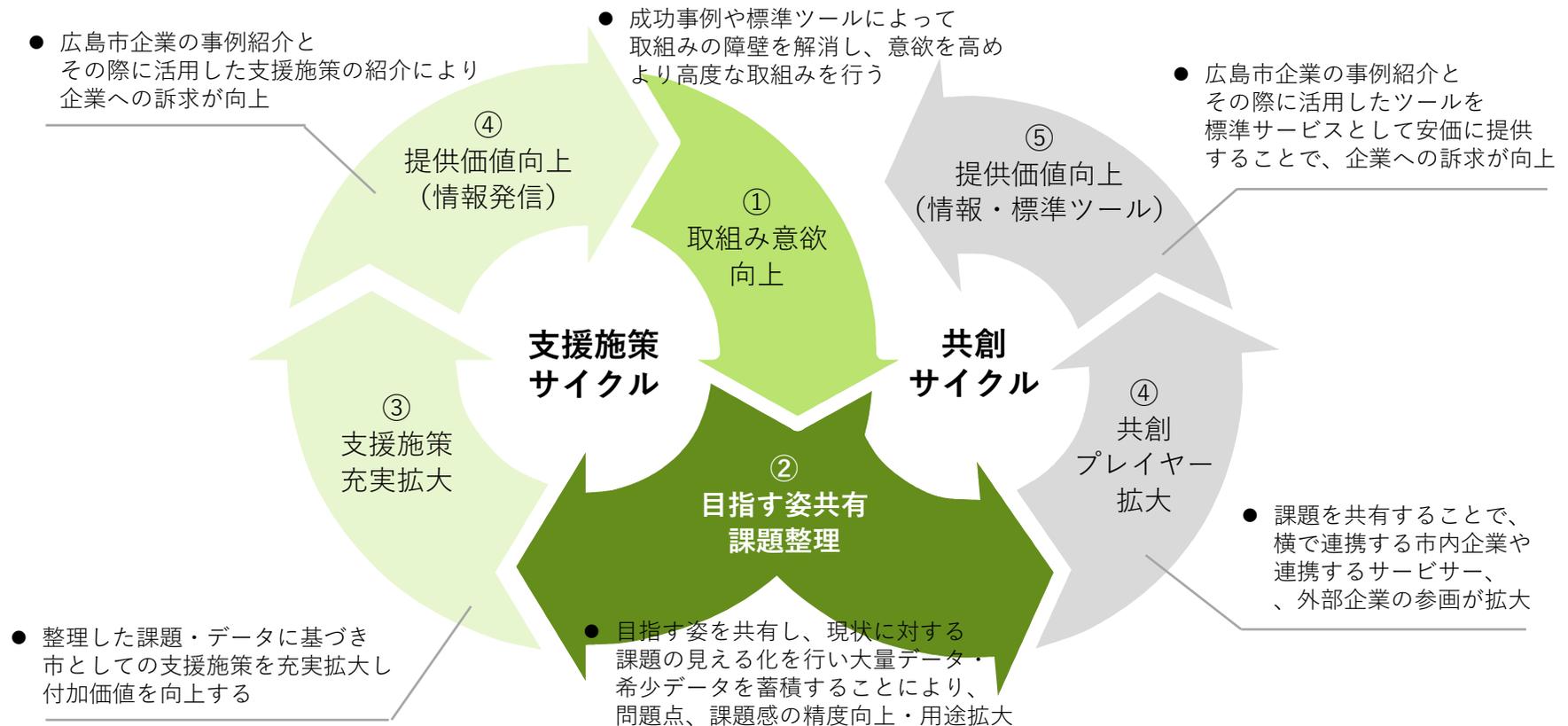
	現状・問題意識	課題・ニーズ	来年度目指す姿
脱炭素化	<ul style="list-style-type: none"> <li>4割の企業が脱炭素化・省エネに取り組めていない状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素化に取り組む知識や技術習得が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての企業が脱炭素化について前向きに実行・または計画できる状態を構築する（脱炭素化実現の為の課題見える化は次ステップ）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素化の効果に対して不明やマイナスのイメージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実を則した脱炭素化や省エネの効果理解が必要</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG排出量の見える化ができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見える化により脱炭素化実現に向けた課題抽出が必要</li> </ul>	
業務効率・デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツールの選定やカスタマイズできる内部人材が不足している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな専門的人材の確保や社員のリスクリグが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な方は誰でも個人のレベルに応じた教育を受けることができる環境を整える（主体的な従業員を育てることは長期目線で実施）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい知識や技術を主体的に学ぶ人材が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員のモチベーションを向上させるインセンティブが必要</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成に人・時間を割けない（ライン外せない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成を行う為の人材確保・補填が必要</li> </ul>	
事業拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機感はあるも新分野・新事業の取組みができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブランディング・価値創造ストーリー含む事業プランが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新分野・新事業の成功事例創出に向けて、有望な事業再構築プランを構築する</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社の強みが分からない、取組をするノウハウがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存事業の棚卸しとコア技術・強みの整理</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな顧客を開拓する為の営業人材が不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協業の為のマッチングを含む営業支援の場提供が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業再構築に特に意欲的な企業や実行時の準備としてWEBマーケティングツールを整備する</li> </ul>

# これまでの市を主体とする支援施策サイクルをベースとしつつも、外部プレイヤーや企業間、広島市や大学と共創するサイクルを拡大し、その中で持続的成長と人材育成も目指す

## 来年度以降の協議体位置づけ（案）

### ■ 新分野・新事業の成功事例創出に向けた、具体的な事業再構築プラン策定“魅せる事業計画の策定”と、継続的な協議体での課題討議を通じた人材育成および共創の模索

- 脱炭素化は、取組み状況のバラつきが多く、共通課題としての模索の前に意識醸成が肝要
- 業務効率化・生産性向上は、競争領域としての意識が強く、既存事業においては競争・協調領域の定義がないと共創サイクル構築は困難
- 新分野・新事業は、共創で行う余地が存在。併せて共通課題としての認識が強い、課題を自分事として捉える次世代人材育成も兼ねることが可能と想定



# APPENDIX

# 取組がある企業は、社会的責任、業務効率化・生産性向上等とプラスに捉えている一方、取組がない企業は、進め方の理解不足、短期的な費用・効果のみを見ていることが窺える

## 脱炭素化に対する考えの背景や理由（例）\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=42】

分類	自由記述内容例
社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ まわりの企業間でも少しずつ浸透していることもあり、また環境のことをしっかりと考えた行動は企業の風土として取組むべき課題だと認識しているため</li> </ul>
業務効率化・生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 運送便の効率化、段取効率の向上（フォークリフト作業の低減）、省エネ設備の導入・生産性の向上（電気代の低減）につながるため</li> <li>■ 廃材として処分していたプラスチックを再利用することで、脱炭素化と生産性向上を両立させる</li> </ul>
国・マツダの方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国の施策全体で取り組んでいる内容であり、当社もその一員を担いたいと思っている</li> </ul>
お客様からのニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製品の品質が変わらない中、付加価値として製品製造におけるのポリシーも製品選択の一因になるのでは</li> <li>■ 客先からの要請も始まりこれからビジネスを継続するにあたって避けられない課題</li> </ul>

### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=26】

分類	自由記述内容例
取り組み方	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ SDGsへの調査、取組みを始めたが、そのゴールが脱炭素化への取組みがメインになると考えているが、何が、どうすれば、脱炭素化に繋がるのが現状ではまだ見えていない状況です</li> <li>■ 手探り状態です。他の先行して取り組んでる企業を参考にしたい</li> <li>■ どこをどうして軽減してよいかかわからない</li> </ul>
効果が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 費用と手間が掛かる割にメリットが少ない。現状に支障が出ていない</li> </ul>

\* 自由記述

# 取組がある企業は、具体的な取組の進め方や自社にあった取組検討等の支援を必要としており、取組がない企業は、脱炭素化の意義、取組イメージを持つ機会を必要としている

## 脱炭素化に対する行政に希望する支援策例\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=35】

分類	自由記述内容例
金銭的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中小企業は、省エネ機器を導入したいですが、導入する余裕がありません。思い切った補助金などをつくって頂き産業を活性化してほしいです</li> <li>■ 中小企業では人・物・金が常に不足がちである。小規模の助成では思い切った施策を打ち出すことは難しい。それこそ異次元の施策で中小企業の支援があってほしい。大企業はもともと金があるから(ベースがある)なんでもできる</li> </ul>
具体的な進め方・ナレッジ共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 他地域での先進的事例の展開</li> <li>■ <u>中小企業で取り組まれていて、広島市がある程度評価されている取り組みの事例</u>などの報告があるとよい。なにをしたら良いかわからない場合は、まず真似るところからだと思います</li> <li>■ どのような部分について、<u>どのように進めていいのかが分からない</u></li> <li>■ 脱炭素化についての<u>知識が不足</u>していますので、講習会・セミナーなどに積極的に参加をしたいと思います</li> </ul>
取組の検討支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取組み事例等情報のメール送信及び<u>自社に合う取組み内容検討</u>のための専門家派遣を希望。社員のモチベーション維持のための可視化ツールが必要だと感じているが予算の関係で難しいため補助が必要</li> <li>■ 脱炭素がどうやったら利益につながるかを考える必要があります。単純な事例を紹介するよりは<u>どうやったら収益の改善や利益につながっているかを一緒に模索</u>し、実際に各社の数字に落とし込んでいくことが一番理解が早いのではないかなと思います</li> </ul>

### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=24】

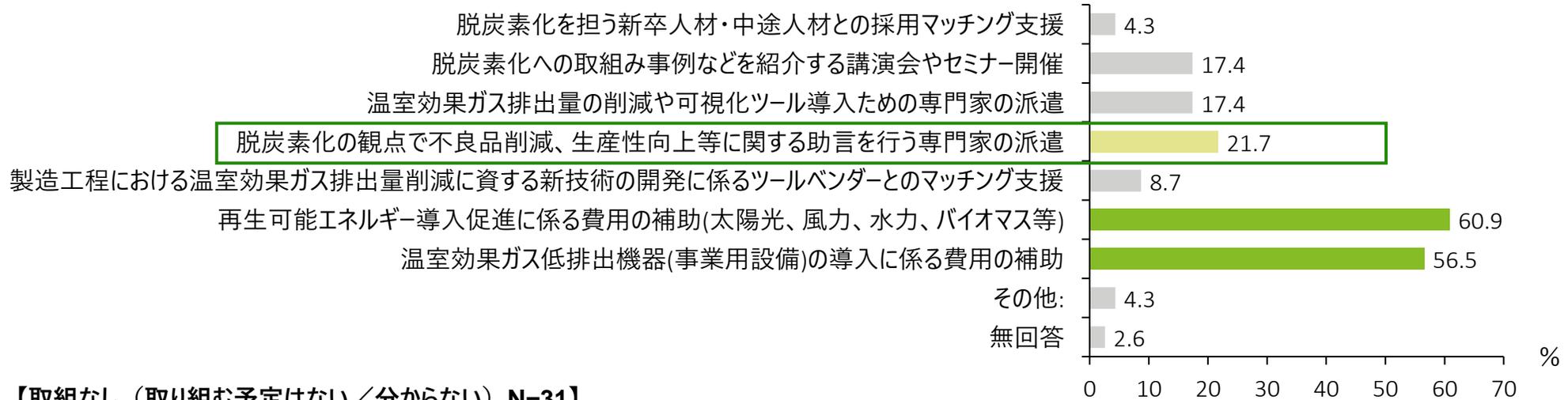
分類	自由記述内容例
金銭的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 太陽光パネル設置等の必要性も感じている為、それらへの助成金募集をして欲しい上、募集をする際は告知をして欲しい。知識のある方だけが助成金を活用できているように感じており、我々のような素人はそのチャンスを逃しているようにも感じております。</li> </ul>
脱炭素化への理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 会社全体で脱炭素化を目指すためにと 言われても何が良くて何がわるいのが、具体的に不明確すぎてよくわかりません。再生エネルギーのみが取り入れてよいかと思うくらいで金額面など会社に見合うのか、不明ではあります</li> </ul>

\* 自由記述

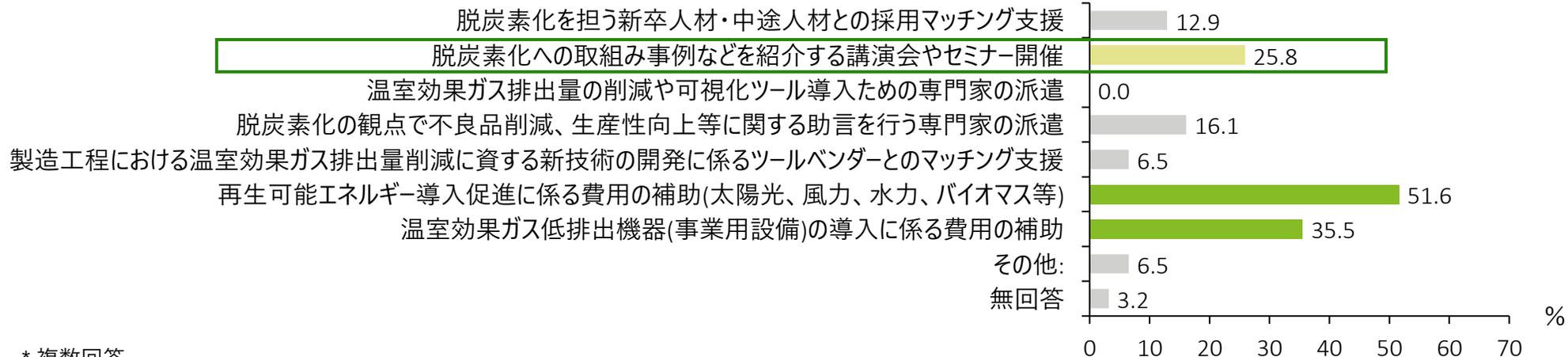
# 取組あり・なしともにツール導入等に向けた金銭面での支援を希望する一方で、それ以前に、事例共有や温室効果ガス排出量の現状把握に関するナレッジ共有を必要としている

## 脱炭素化に対する行政に希望する支援策\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=46】



### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=31】



\* 複数回答

# 取組がある企業は、エクセルやデジタルデータを生産、経理等に活用している一方、取組がない企業は取組方法がわからない、あるいは、アナログデータの活用程度となっている

## デジタルデータの取得・活用状況についての背景や理由\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=49】

分類		自由記述内容例
活用方法	エクセルの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基幹業務管理システムに近いシステムで、顧客管理、製品管理等を行っているが、システムが古く、使い勝手の悪さから、多くは担当者が個別にEXCELを作成し業務を遂行している。また、顧客からの注文はEDIが入っても当方でペーパーにする必要がある受注形態も多い</li> </ul>
	デジタルデータの蓄積と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ある程度のデジタルデータは扱っているし、またそれを活用もしている。製品の売り上げ予想まで言わないが過去データからどの程度製造したらよいかなど</li> <li>■ 機械等の稼働率の集計を行っており、稼働率の悪い機械は何が原因(精度、故障等)なのか？を調査し、次期設備更新の判断材料にしている</li> <li>■ デジタルデータ技術の活用により受発注、生産管理、経理においてデータの蓄積、共有を可能にし、紛失、再現性の無い、紙での管理から脱却したい</li> </ul>
メリット	生産性向上・業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コロナ禍での働き方改革、省資源化でのペーパーレス、業務効率化のためのDX推進</li> <li>■ 人員削減、データの保存性・正確性の担保、業務効率化のため</li> </ul>

### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=18】

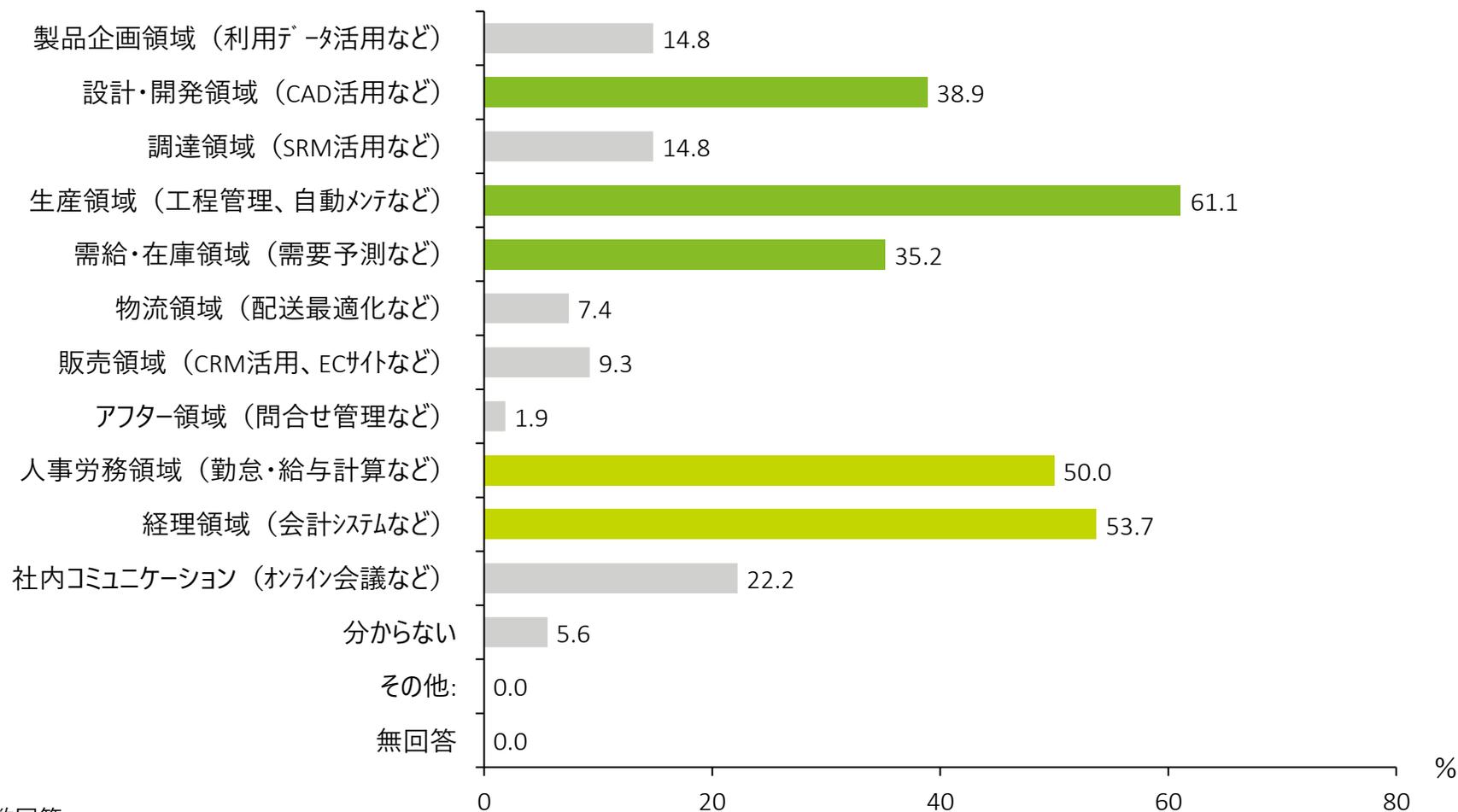
分類		自由記述内容例
活用方法	アナログデータの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現在アナログデータが主であるが、日々の製品検査データ等を蓄積して品質管理を実施している</li> <li>■ デジタルデータは危険であるという会社の考えによる。このため、ペーパーレス化は進まない</li> </ul>
	エクセルの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エクセル等でデジタルデータ保存し、PCに保管。必要な時はデータ又は紙を使用する</li> </ul>
取り組み方	取り組み方の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DXについては、どういった取り組みから始めたらよいか模索しています</li> <li>■ 社内にあったデジタルデータの活用法がわからない</li> <li>■ 活用のメリットを見いだせていない</li> </ul>

\* 自由記述

# 今後は経理領域、人事労務領域等のバックオフィス系に加え、生産領域、需給・在庫領域等、より現場寄りの領域にデジタルを活用している・する予定である

デジタルデータやITツールを活用した業務改善・効率化について、現在取り組んでいる領域・今後取り組む予定の領域\*

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=54】



\* 複数回答

# 取組がある企業では、経理、生産管理、労務管理等の業務においてソフト活用等を行い、デジタルデータを業務において活用することで、人材不足や業務効率化に対応している

デジタルデータやITツールを活用した業務改善・効率化について、具体的な取組みの詳細や背景理由\*

【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=47】

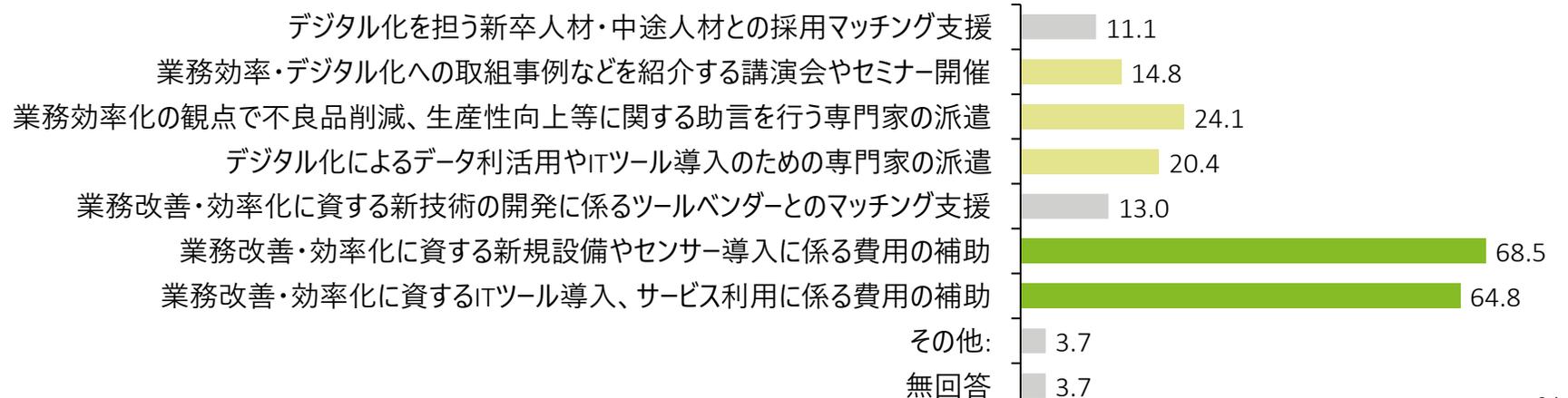
	分類	自由記述内容例
業務の改善	経理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 税理士と財務データをオンライン共有（業務効率化）</li> </ul>
	生産管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現システムが業務拡張に追いつかずサブシステム等を構築し運用しているが保守・サポート期間の満了により、クラウドによる生産管理ソフトを導入する。高い専門知識を持たなくてもインターネットに接続できる環境で操作が出来て、保守等のランニングコストも削減できる</li> <li>■ 生産計画表の作成支援プログラム（生産効率化）</li> <li>■ 製品・材料の在庫量のデジタルデータ管理（材料発注・在庫管理の効率化）</li> <li>■ 設備稼働状況をオンラインで把握（設備稼働管理）</li> <li>■ LINEグループによる報連相の促進</li> <li>■ チェックシート等の電子化</li> </ul>
	人事労務管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設計予定表作成に莫大な時間が掛かっていた。各個人の週報(Excel入力)、残業管理表(手書き)をそれぞれ作成して無駄が多かった。kintone導入により、これらの解消に取り組んだ。kintoneを活用し、設計予定表の作成工数が減少した。kintoneで週報と残業管理表を連携させることに目途が立ち、今後各人の入力工数が減少される見込みがある。また将来的には各人が入力した数値・工数を、kintoneで作成する原価管理アプリに入力し、管理に活用する思いがある</li> <li>■ 給与等のオンライン振込（業務効率化）</li> <li>■ 勤怠管理のデジタルデータ化（タイムカードのデータ自動集計）</li> </ul>
人材不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人材不足やヒューマンエラーをなくすため徹底的なデジタル管理をやっていきたい</li> <li>■ 業務効率化、人材不足のため</li> </ul>	

\* 自由記述

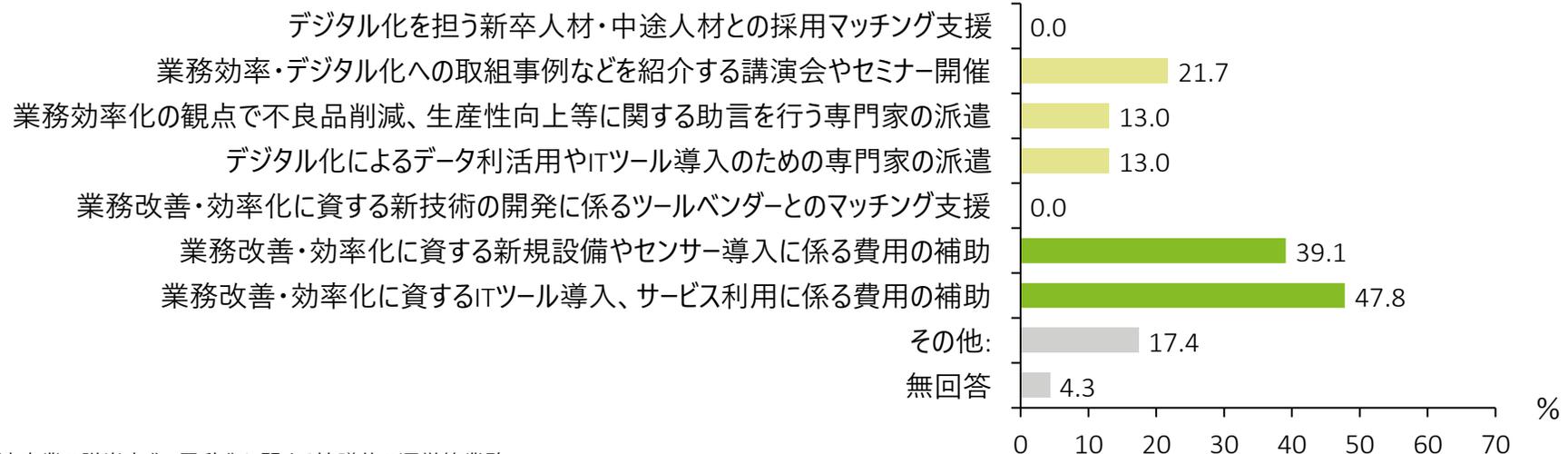
# 取組あり・なしともにツール導入等に向けた金銭面での支援を希望する一方で、それ以前に、取組事例の共有、生産性向上等の助言・ツール導入に向けたナレッジ共有を求めている

## 行政に希望する支援策\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=54】



### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=23】



\* 複数回答

# 支援施策として、業務効率化・デジタル化に向けた取組のメリット・デメリット、取組事例等の基礎的なインプット、取組を行う上での個社別のアドバイスを求めている

## 行政に希望する支援施策\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=37】

分類	自由記述内容例
金銭的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規設備導入の為の補助金があればよい</li> <li>■ 導入費用の応募タイミング、期間を増やしてほしい</li> <li>■ パッケージソフトでのIT化は、弊社の業務にマッチしていないので、カスタマイズされたITツールが必要と考えるが、その費用は百万単位となる</li> <li>■ 初期投資分の回収までの効果が出せる見込みがなく、進めることができない案件もあるので補助を受ければそのハードルも下がる為</li> </ul>
具体的な進め方・ナレッジ共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務効率・デジタル化については勉強不足です。<b>支援して欲しい内容すらわかりません</b>。社員がデジタルツールを使って、今よりも楽に仕事ができる様にしたい</li> <li>■ リアルタイムで製品の量・流れを把握する仕組みを作りたいが、実現可能な方法が分からない</li> <li>■ 他社等の中小企業の導入事例等の情報を頂けるのはありがたい</li> </ul>
取組の検討支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 補助金等の支援はもちろんですが、<b>相談や人の派遣等と製品や設備の紹介や導入支援まで助けてもらいたい</b></li> <li>■ 業界のデジタル化は業界を熟知した方でないと難しい。恐らく東証プライムに上場している大手企業の専門家クラスの人材支援でないと成果は出にくいと思う。こういう人材を行政の力で派遣して頂けたら有難い</li> </ul>

### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=15】

分類	自由記述内容例
業務効率化・デジタル化の基礎理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>導入事例やメリットデメリットを知りたい</b></li> <li>■ アナログ世代主流の中で移行するメリット、ノウハウの提案があれば</li> </ul>
取組の検討支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>実務を見た上での改善案を頂きたい</b></li> <li>■ 日々の事務作業、工程管理の付帯作業において<b>自動化・効率化できることがあればご提案いただきたい</b>と考えます</li> </ul>

\* 自由記述

# 取組がある企業は、マツダやその他既存顧客への依存および電動化への対応等から取組を行っている一方、取組がない企業は、目の前の業務以外に手がまわらずにいる

## 事業拡大に対する状況についての背景や理由\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=46】

分類	自由記述内容例
マツダの経営状況の影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ マツダ様の生産台数減少に伴い、売上が減少しているため</li> </ul>
取引先の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取引先を増やさないと、景気が悪くなってきたときに生き残れなくなるため</li> <li>■ 広島自動車業界からの受注割合が多すぎである為、他分野の割合を増やし、売り上げの安定化と暇忙の平均化を計りたい</li> <li>■ ほとんどの割合が1社の自動車部品で売り上げを占めるが、単価もシビアでコスト転嫁もままならない状況で売上をあげても利益が出ない状況。できるだけ依存を解消したい</li> <li>■ 特定の業種や顧客に受注を依存する事のリスク対応</li> <li>■ 良い顧客との取引があり工場、設備、人材の確保の計画</li> </ul>
電動化対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車の電動化が進むことで既存領域の取引は減少傾向にあると考え、新規領域の取引が必要と考える</li> </ul>
新事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車部品部門が衰退傾向にあるので産業機械部品の精密切削加工に進出している</li> <li>■ 行政の道路標識への発注が減少している為、新製品、新事業への取り組みを検討している</li> </ul>

### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=23】

分類	自由記述内容例
人材不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現在の従業員で仕事をこなすので精一杯の為</li> <li>■ 売上の減少や賃上げで新しい人材をなかなか雇用できない</li> </ul>
既存事業で手一杯	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人員不足もあり、事業拡大というより先ずは既存製品の単価改定を図っていただき既存規模での収益上昇を図りたい</li> <li>■ 今現在の事業の品質を向上させることが必要</li> </ul>
進め方が不明	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現状では、弊社が持ち力量、設備で自動車用金型製作以外に何ができるのかが分からない</li> </ul>

\* 自由記述

# 取り扱っている主な製品として、素材としてはプラスチック、金属、樹脂・ゴム等の製品が多く、業界ではモビリティ系が多くなっている

## 取り扱っている主な製品\*

大分類	小分類	自由記述内容例
素材	プラスチック	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プラスチックブロー成型品</li> <li>■ プラスチック押出成形品（主に自動車外装関係部品）</li> <li>■ プラスチック射出成型用金型、自社プラスチック日用品</li> </ul>
	金属	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 板金加工製品、ルーフキャリアブラケット、ナビブラケット</li> <li>■ ブラケットなどのプレス金型</li> <li>■ 金属熱処理、機械加工</li> <li>■ 金属製品防錆処理加工、トルク係数安定化加工</li> <li>■ 金属屋根材、金属壁材</li> </ul>
	樹脂・ゴム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車用内外装ゴム製品、産業機械用ゴム製品、土木建築用ゴム製品</li> <li>■ 樹脂成形品（ブロー成形）</li> <li>■ ゴム加工省力機械</li> </ul>
業界	自動車等モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車用ドアハンドル部品</li> <li>■ 排気系自動車部品</li> <li>■ 航空機エンジン部品、自動車試作板金</li> <li>■ エンジン用フェューエルレール、トランスミッション用バルブスプール</li> <li>■ 自動車部品搬送パレット・台車</li> <li>■ ハーネス製品（自動車・船舶・農建機）</li> </ul>
	医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 介護福祉機器</li> <li>■ 医療福祉製品</li> <li>■ 医療器具</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 建設機械用部品、産業機械用部品、工作機械用部品、半導体関連部品の機械加工</li> <li>■ 建機用マフラー及び付随する排気管、発電機用マフラー及び付随する排気管</li> <li>■ テントシート</li> </ul>

\* 自由記述

# 保有技術・強みとして、具体的には、樹脂・ゴム成形では多品種少量生産技術等を有しており、機械加工では精密部品等における機械加工技術を有している

## 保有技術・強みについて具体的な内容\*

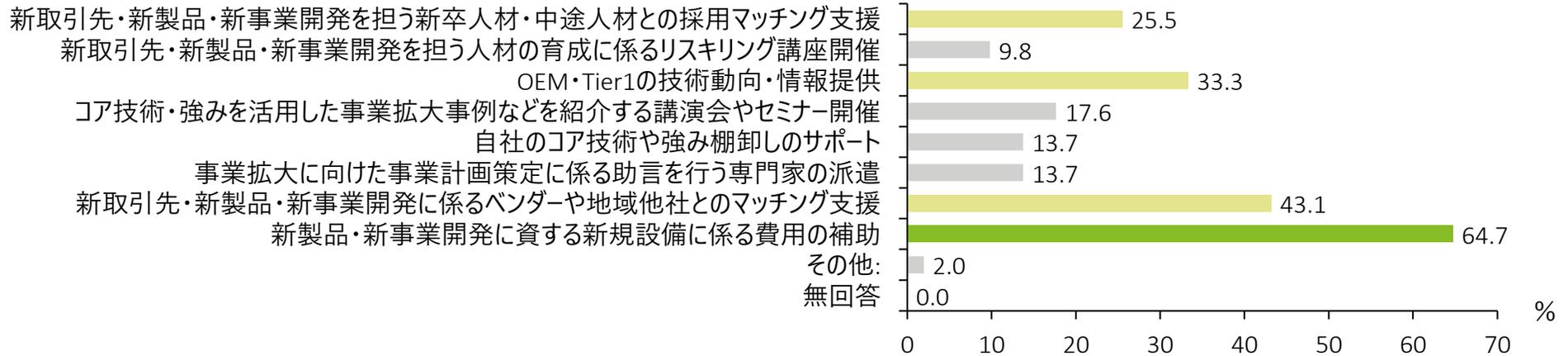
分類	件数	自由記述内容
① 鋳造・鍛造等	2	鉄やニッケルを素材にした大型鋳物製造技術と精密な加工技術／高精度冷間鍛造技術、高精度温間鍛造技術
② 金型加工	5	複雑構造型の製作と客先への技術提案と対応力／成形解析力(CAE)を含めた高難易度物件に対しての技術／精密さ／板金加工用金型の設計製作／高精度な製品を生み出せる金型の製作
③ 機械加工	14	大型製品の精密加工、絶対的な納期管理、品質確保／長年蓄積した精密部品における機械加工／加工製品の意匠性と精度／仕上工数の少ない追い込み加工／3次元加工／治具製造／多種複数機械を揃え様々な加工に迅速に対応可能／ウォータージェット・カッティングプロッターにて小ロット製作が可能（量産前試作製作品）／成形／CAD/CAMによるNC加工／難切削加工／繊維の板化／精密加工／鋳物の小ロット加工における治具製作を含む技術
④ プレス加工	5	他のプレスメーカーが製作できないといった製品のプレス金型を製作できる／プレス加工時の作業性の改善／異素材材料の接着複合化技術、遮音吸音部品加工／ロボットによる安定生産／プレス加工の多軸ロボットを利用したライン化技術
⑤ 溶接	12	単品加工の溶接／品質／大型フレームなどの寸法精度／溶接工程の生産技術／ロボット溶接技術／厚物溶接／設計から納品までの一貫体制／溶接技術／非破壊検査(表面・内部欠陥)による品質確保／道路標識支柱製缶に関するノウハウ／製缶、溶接、組立まで可能／溶接（技術）
⑥ 樹脂・ゴム成形	17	超精密品を含むゴム成型技術／軟質プラスチックの成形／量産技術／多品種少量生産に対応／射出成形における品質安定のための技術／射出成形技術における品質向上技術／射出成形コアバック発泡成形、金属・樹脂部品切削／ブロー成型／多品種少量生産／特殊ゴム成型 インサート成型等／プラスチック成形技術／プラスチック成形技術、塗装加飾技術／ブロー成型で工業部品を取り扱う会社が全国的に少ない／県下で数少ない押出成形方法にて汎用樹脂全般の小ロット多品種生産／新製品立ち上げ時の育成ノウハウ／インサート成形／小物精密部品成形
⑦ 表面処理・塗装・メッキ	5	塗装（技術）／品質の安定、納期遵守／細かいバリ取り／量産部品から小物部品、試作対応／紙以外の材料への印刷及び表面処理加工／アルミ精密小物部品の切削加工
⑧ 熱処理	2	金属熱処理／イオン窒化、高周波焼入れ、レーザー焼入れ
⑨ 配線・組立	2	独自の自動組立機の所有／配線・組立を一から生産できる。小型プレス機は開発からできる。
⑩ 電機・電子	1	車の部品の検査に必要な電子技術
⑭ 経営理念	1	愛と感謝でいきいきとした明るい職場
その他	7	エンジニアリング：要求仕様に対する提案力／テントシート取付け：工場、店舗、トラックにテントシートを張る施工／組立及び気密試験：ヘリウムガスを利用し高感度に製品の漏れを検出する／設計から最終組立まで100%内製化可能。製品の完成度が高い。／一貫した生産による短納期が可能／パイプ加工はもちろんプレス加工品、各種表面処理(協力メーカー)との組合せによる対応力／ワイヤーロープ加工

\* 自由記述

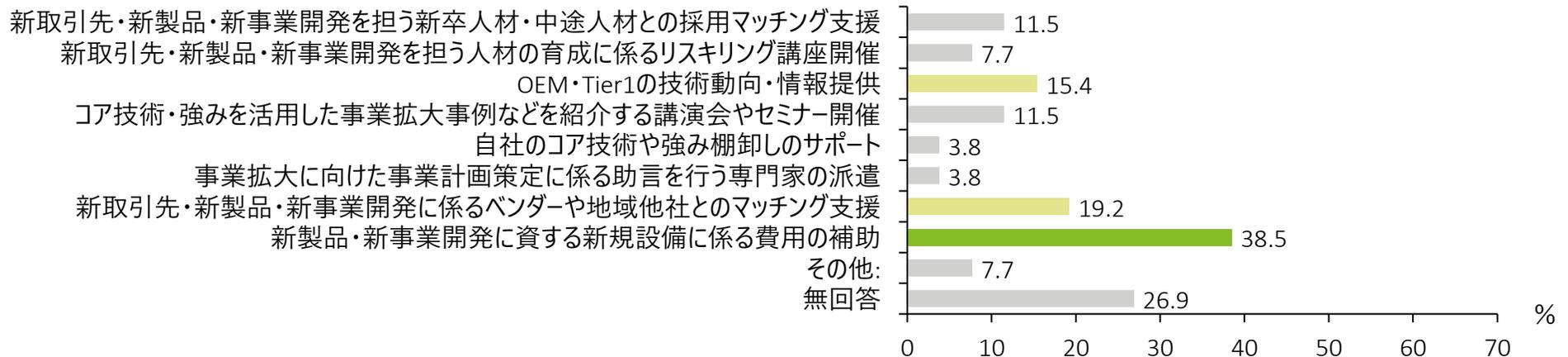
# 行政に希望する支援策として、取組あり・なし問わず新規設備の費用が多くなっていることに加え、新地域・新製品・新事業を進める上での外部とのマッチング支援を求めている

## 新取引先開拓、新製品・新事業開発を進めるうえで、行政に希望する支援策\*

### 【取組あり（意欲的に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=51】



### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=26】



\* 複数回答

# 取組がある企業では新規取引等におけるビジネスマッチング、取組の具体的な検討支援を求めており、取組がない企業では、取組を始める上での事例共有等の支援を求めている

## 新取引先開拓、新製品・新事業開発を進めるうえで、行政に希望する支援策\*

### 【取組あり（既に取り組んでいる／取り組む予定がある） N=43】

分類	自由記述内容例
金銭的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規設備に関わる費用の補助</li> <li>■ 設備投資対しての減価償却優遇策（例:過年に遡っての償却）</li> </ul>
マッチング支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車では近将来の需要部品で弊社に何が出来るか？自動車以外でゴム製品の<b>新規取引マッチング支援</b>。また、それに関わる適切な設備投資や人材に関するアドバイスや費用補助があれば有難い</li> <li>■ <b>異業種へのマッチング</b>を期待</li> <li>■ <b>ビジネスマッチングとしての事業紹介</b>を何らかの媒体を通じて行いたい</li> <li>■ <b>マッチングを促進する取り組み</b>の支援</li> </ul>
取組の検討支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中小企業に対する支援政策を、技術開発補助金や設備投資だけから、高度技術人材を派遣するといった方面に広げてほしい。例えば、国や地方にある公設試験場や研究所で博士号を持つ新しい分野の技術者を、先端技術研究員などの名目で国が雇い、中小企業の研究開発支援のために派遣するという仕組みを作れば有難い</li> <li>■ 弊社の<b>技術が何に活かせる</b>を知りたい</li> </ul>

### 【取組なし（取り組む予定はない／分からない） N=14】

分類	自由記述内容例
金銭的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設備に対する補助金</li> </ul>
ナレッジ共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 成功した会社の事例やセミナー等の開催、告知をして欲しいです</li> <li>■ 電動化の実質的な動向</li> </ul>
人材不足解消支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人材の確保に関して支援が欲しい</li> </ul>

\* 自由記述

# 品質管理等の生産管理能力、技術レベルの向上等の業務スキルアップに加えて、各種取組を進める上での課題解決能力、お客さんとのコミュニケーション能力を必要としている

## 従業員のスキルアップに関する背景・理由\*

【N=61】

分類		自由記述内容例
業務スキル	生産管理能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特に<b>品質管理</b>についてのスキルを身につけさせたい</li> <li>■ 工場の管理力が高いほど仕事を受注しやすくなるため</li> <li>■ 品質向上のため</li> </ul>
	技術開発能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自社の技術向上とその管理能力を中心に、原価などコスト意識を高めることが諸問題の根本的な解決につながると感じている</li> <li>■ 技術の優位性は、その事自体が営業強化に繋がる</li> </ul>
	業務効率化・生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本でモノづくりを続けるにはいかに工数を減らすかまたは他社との差別化をどうはかるかが、カギを担っているから</li> <li>■ 生産性向上のための新たな取り組みを提案できる人材の育成が必要と考えます</li> <li>■ 弊社における問題として従業員の高齢化、人員不足等の状況から、「業務効率化」および「デジタル化」に取り組むことに恩恵があると考えます</li> </ul>
ビジネススキル	課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 古い企業体質として、問題解決能力に欠けている</li> <li>■ これからのますます変化が激しくなってくるため、いろいろな課題が出てくると思われる。それを自分自身で考え解決していく能力が必要となる</li> </ul>
	コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 解析ソフトの向上により工法技術・解析技術の向上をはかり、<b>客先とのコミュニケーション能力</b>を身につけスキルアップしてほしい</li> </ul>
	その他ソフトスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作業以外の事を教育できていない</li> </ul>

\* 自由記述

**End of File**